
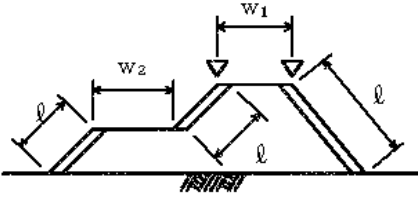
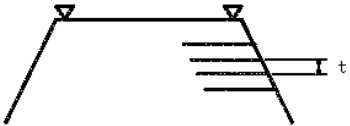


出来形管理基準及び規格値


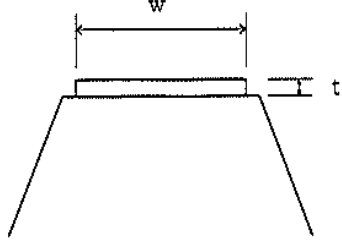
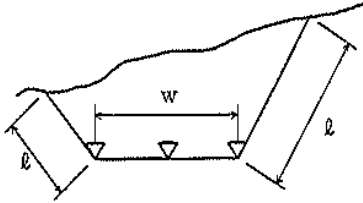
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	2		掘削工	基準高 ∇	± 50	
						法長 l	$l < 5 \text{ m}$	-200
							$l \geq 5 \text{ m}$	法長 - 4%
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	3		盛土工	基準高 ∇	-50	
						法長 l	$l < 5 \text{ m}$	-100
							$l \geq 5 \text{ m}$	法長 - 2%
						幅 w_1, w_2	-100	
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基準高 ∇	-50	
						厚 さ t	-50	
						控 え 長 さ	設計値以上	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p> <p>基準高は掘削部の両端で測定。</p> <p>ただし、「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書の測点毎。基準高は掘削部の両端で測定。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p> <p>基準高は各法肩で測定。</p> <p>ただし、「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書の測点毎。基準高は各法肩で測定。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

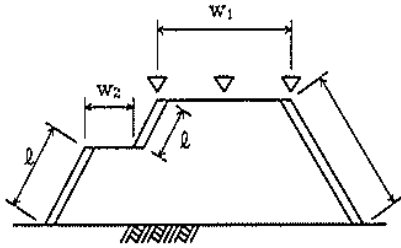

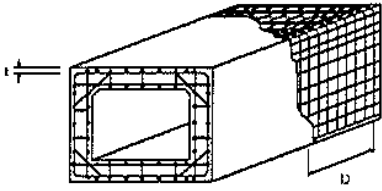
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	5		法面整形工（盛土部）	厚 さ t	※-30	
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	6		堤防天端工	厚 さ t	t < 15cm -25	
							t ≥ 15cm -50	
						幅 w	-100	
1 共通編	2 土工	4 道路土工	2		掘削工	基 準 高 ▽	±50	
						法長 ℓ	ℓ < 5 m	-200
							ℓ ≥ 5 m	法長 - 4 %
						幅 w	-100	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。</p>		
<p>幅は、施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは、施工延長200mにつき1箇所、200m以下は2箇所、中央で測定。</p>		
<p>施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書の測点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。</p>		

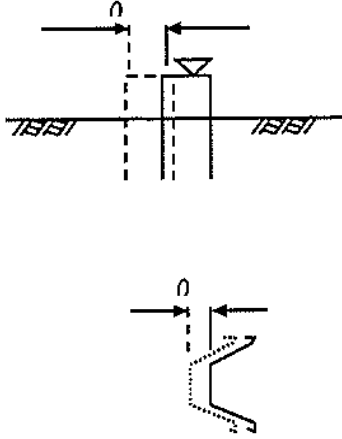
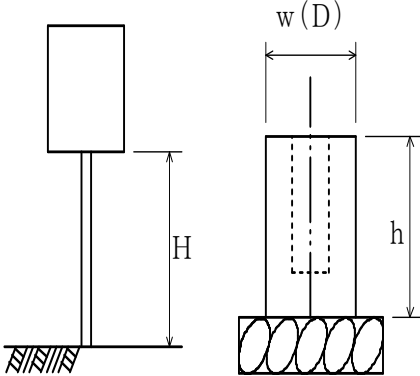
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通編	2 土工	4 道路土工	3 4		路体盛土工 路床盛土工	基 準 高 ∇	± 50	
						法長 ℓ	$\ell < 5 \text{ m}$	-100
							$\ell \geq 5 \text{ m}$	法長 - 2%
						幅	w_1, w_2	-100
1 共通編	2 土工	4 道路土工	5		法面整形工（盛土部）	厚 さ t	※-30	
1 共通編	3 無筋、 鉄筋コン クリート	7 鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d	$\pm \phi$	
						かぶり t	$\pm \phi$ かつ 最小かぶり 以上	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 ただし、「TSを用いた出来形管理要領（土工編）」（平成24年3月29日付け国官技第347号、国総公第85号）の規定による場合は、設計図書の測点毎。基準高は、道路中心線及び端部で測定。</p>		
<p>施工延長20mにつき1箇所、延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。</p>		
<p>$d = \frac{D}{n-1}$</p> <p>D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径</p> <p>工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（設計編13.2）参照。ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲコンクリート橋編6.6）による。</p> <p>注1) 重要構造物かつ主鉄筋について適用する。 注2) 橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、第3編2-18-2床版工を適用する。 注3) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（案）」を適用する。</p>		

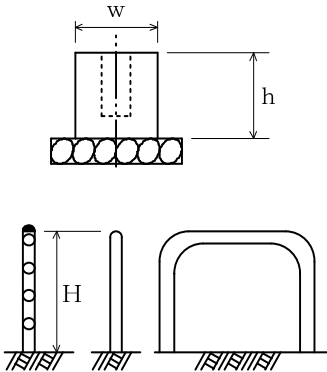
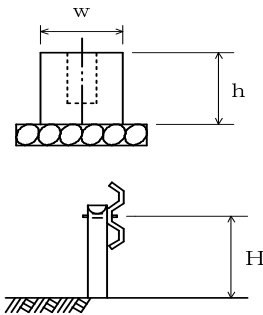
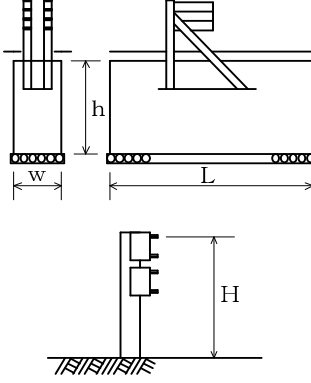
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 ∇	±50	
						根 入 長	設計値以上	
						変 位 \varnothing	100	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	5		縁石工 (縁石・アスカーブ)	延 長 L	-200	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	6		小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	
						基礎	幅 w (D)	-30
							高 さ h	-30
							根入れ長	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1箇所／1施工箇所</p>		
<p>1箇所／1基</p>		
<p>基礎1基毎</p>		

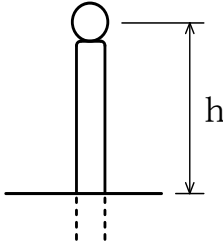
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
						パイプ取付高 H		+30 -20
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
						ビーム取付高 H		+30 -20
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
							延 長 L	-100
						ケーブル取付高 H		+30 -20

測定基準	測定箇所	摘要
<p>単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1箇所測定。</p> <p>1箇所／1施工箇所</p>		
<p>1箇所／施工延長20m 20m以下のものは、2箇所／1施工箇所。</p> <p>1箇所／1施工箇所</p>		
<p>1箇所／1基礎毎</p>		
<p>1箇所／1施工箇所</p>		

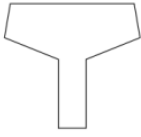
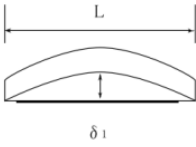
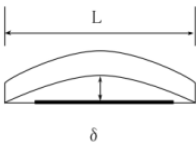
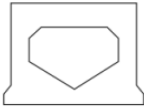
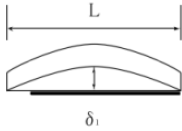
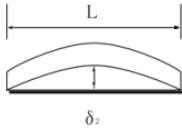
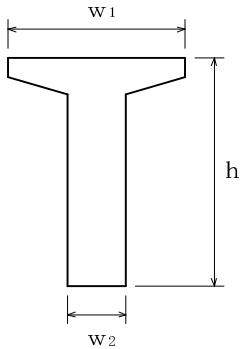
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上
						幅 w	設計値以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋塗装・ 防食便覧Ⅱ-74 「表-Ⅱ.5.5各 塗料の標準使用 量と標準膜厚」 の標準使用量以 上。

測定基準	測定箇所	摘要
各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		
1箇所/10本 10本以下の場合、2箇所測定。		
<p>塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量（充缶数）と、塗付作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。</p> <p>1ロットの大きさは500㎡とする。</p> <p>また、500㎡以下についても1ロットとする。</p>		

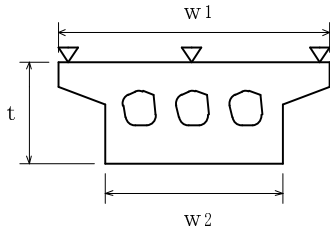
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	$\pm L / 1000$
						断面の外形寸法	± 5
						橋 桁 の そり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	± 10
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	$\pm 10 \cdots$ $L \leq 10m$ $\pm L / 1000 \cdots$ $L > 10m$
						断面の外形寸法	± 5
						橋 桁 の そり δ_1	± 8
						横方向の曲がり δ_2	± 10
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	13	1	ポストテンション桁製作工	幅 (上) w_1	+10 -5
						幅 (下) w_2	± 5
						高 さ h	+10 -5
						桁 長 ℓ 支間長	$\ell < 15 \cdots \pm 10$
							$\ell \geq 15 \cdots$ $\pm (\ell - 5)$
横方向最大タワミ	かつ -30mm以内 0.8ℓ						

測定基準	測定箇所	摘要
<p>桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。</p>	<p>断面図 </p> <p>側面図 </p> <p>平面図 </p>	
<p>桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。</p>	<p>断面図 </p> <p>側面図 </p> <p>平面図 </p>	
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。 ℓ：支間長（m）</p>	<p></p>	<p>注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。</p>

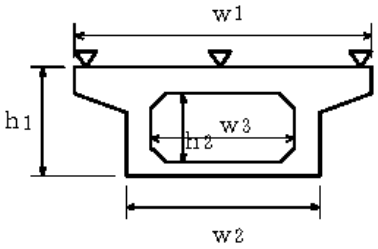
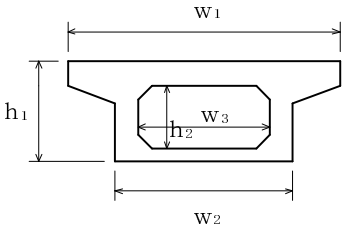
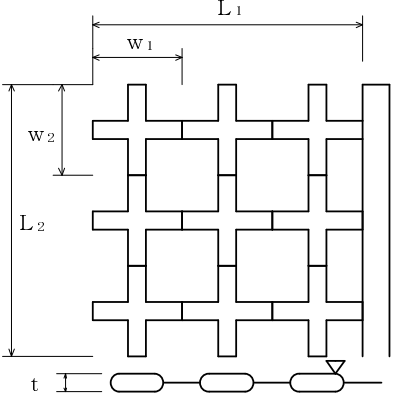
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	13	2	プレキャストセグメント桁製作工（購入工）	桁 長 l	—
						断面の外形寸法 (mm)	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	14		プレキャストセグメント主桁組立工	桁 長 l 支間長	$l < 15 \cdots \pm 10$ $l \geq 15 \cdots$ $\pm (l - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	$0.8 l$
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	15		P Cホロースラブ製作工	基 準 高 ∇	± 20
						幅 w_1, w_2	$-5 \sim +30$
						厚 さ t	$-10 \sim +20$
						桁 長 l	$l < 15 \cdots \pm 10$ $l \geq 15 \cdots$ $\pm (l - 5)$ かつ -30mm 以内

測定基準	測定箇所	摘要
桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレスング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ℓ ：支間長 (m)		
桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び厚さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。 ℓ ：桁長 (m)		<p>注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。</p>

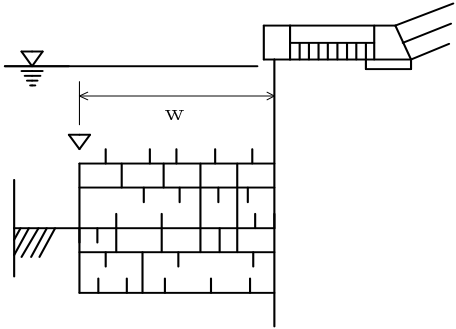
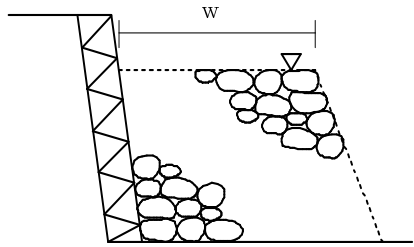
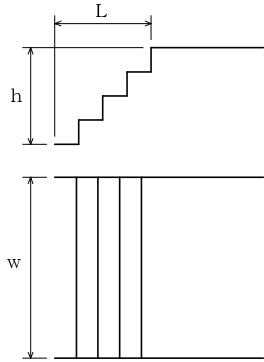
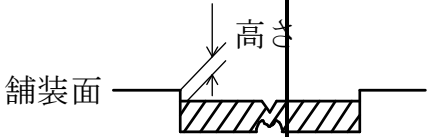
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	16	1	PC箱桁製作工	基 準 高 ∇	± 20	
						幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$	
						幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$	
						内 空 幅 w_3	± 5	
						高 さ h_1	$+10$ -5	
						内空高さ h_2	$+10$ -5	
						桁 長 l	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots$ $\pm (l - 5)$ かつ -30mm 以内	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	16	2	P C 押し箱桁製作工	幅 (上) w_1	$-5 \sim +30$	
						幅 (下) w_2	$-5 \sim +30$	
						内 空 幅 w_3	± 5	
						高 さ h_1	$+10$ -5	
						内空高さ h_2	$+10$ -5	
						桁 長 l	$l < 15 \dots \pm 10$ $l \geq 15 \dots$ $\pm (l - 5)$ かつ -30mm 以内	
						3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種
乱 積	$\pm t / 2$							
厚 さ t		-20						
幅 w_1 w_2	層 積	-20						
	乱 積	$-t / 2$						
延長 L_1 L_2	層 積	-200						
	乱 積	$-t / 2$						

測定基準	測定箇所	摘要
<p>桁全数について測定。 基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で1箇所当たり両端と中央部の3点、幅及び高さは1径間当たり両端と中央部の3箇所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。 ϕ：桁長（m）</p>	 <p>The diagram shows a cross-section of a beam with a central rectangular hole. Dimension w_1 is the total width at the top. Dimension w_2 is the total width at the bottom. Dimension w_3 is the width of the central hole. Dimension h_1 is the total height. Dimension h_2 is the height of the central hole.</p>	<p>注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。</p>
<p>桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、第3編2-18-2床版工に準ずる。 ϕ：桁長（m）</p>	 <p>The diagram shows a cross-section of a beam with a central rectangular hole. Dimension w_1 is the total width at the top. Dimension w_2 is the total width at the bottom. Dimension w_3 is the width of the central hole. Dimension h_1 is the total height. Dimension h_2 is the height of the central hole.</p>	<p>注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。</p>
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	 <p>The diagram shows a grid of reinforcement bars. Dimension L_1 is the length of one bar. Dimension L_2 is the length of one row. Dimension w_1 is the width of one bar. Dimension w_2 is the width of one row. Dimension t is the thickness of the bars.</p>	
<p>幅、厚さは40個につき1箇所測定。</p>		
<p>1施工箇所毎。</p>		

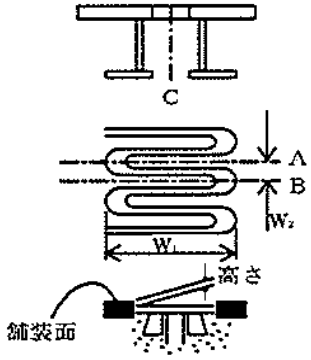
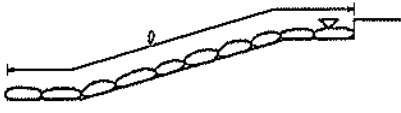
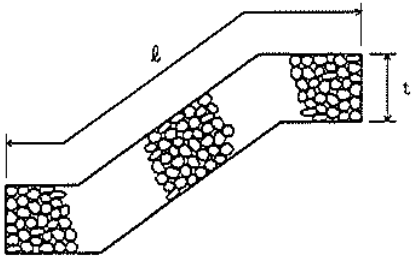
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	18		沈床工	基 準 高 ∇	± 150
						幅 w	± 300
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	19		捨石工	基 準 高 ∇	-100
						幅 w	-100
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	22		階段工	幅 w	-30
						高 さ h	-30
						長 さ L	-30
						段 数	± 0 段
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	舗装面に対し 0～-2
						表 面 の 凹 凸	3
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0～-2

測定基準	測定箇所	摘要
1組毎		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
1回／1施工箇所		
両端及び中央部付近を測定。		

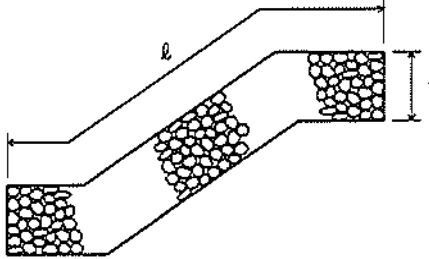
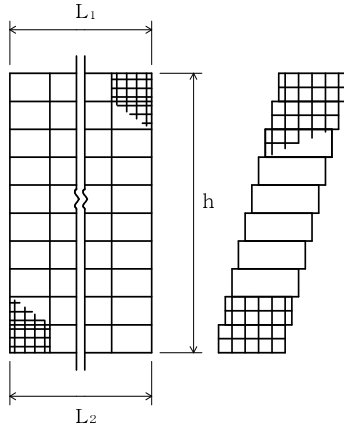
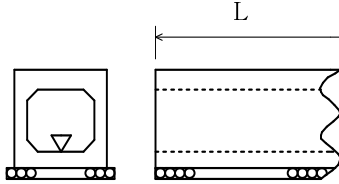
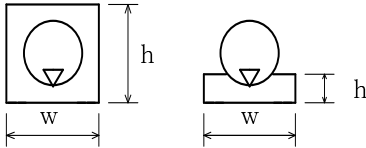
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	据付け高さ	± 3
							車線方向各点誤差の相対差	3
						表面の凹凸	3	
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2	
						縦方向間隔 W_1	± 2	
						横方向間隔 W_2	± 5	
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0～-2	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積み)	基準高 ∇	± 500	
						法 長 ℓ	-200	
						延 長 L	-200	
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通的工種	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 ℓ	-100	
						厚 さ t	-0.2 t	
						延 長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>高さについては車道端部、中央部各3点計9点。 縦方向及び横方向間隔は両端、中央部の計3点。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

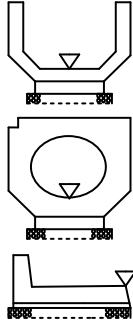
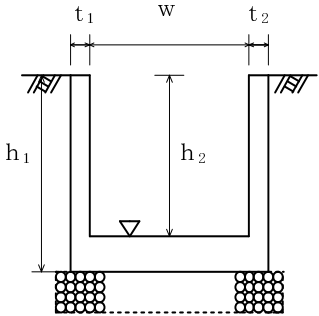
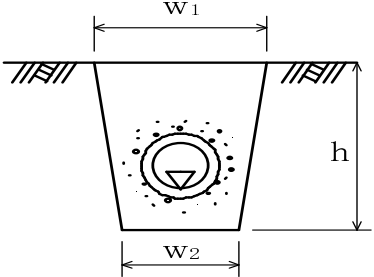
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長	$l < 3 \text{ m}$	-50
						l	$l \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚	さ t	-50
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	27	2	羽口工 (ふとんかご、かご枠)	高	さ h	-100
						延 長	L_1, L_2	-200
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	28		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高	∇	± 30
						※幅	w	-50
						※高	さ h	-30
						延	長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、施工延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ※印は、現場打部分のある場合。</p>		
<p>1施工箇所毎</p>		

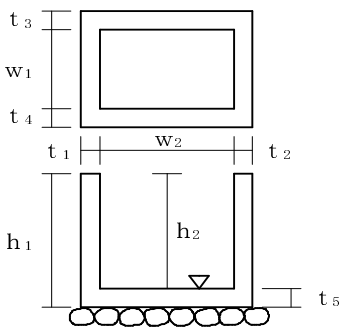
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ∇	± 30
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	2	側溝工 (場所打水路工)	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t_1, t_2	-20
						幅 w	-30
						高 さ h_1, h_2	-30
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	29	3	側溝工 (暗渠工)	基 準 高 ∇	± 30
						幅 w_1, w_2	-50
						深 さ h	-30
						延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、施工延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1箇所／1施工箇所</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、施工延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所。 延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		<p>1箇所毎</p>

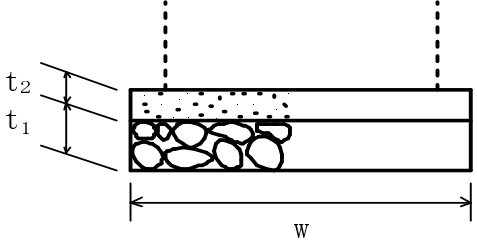
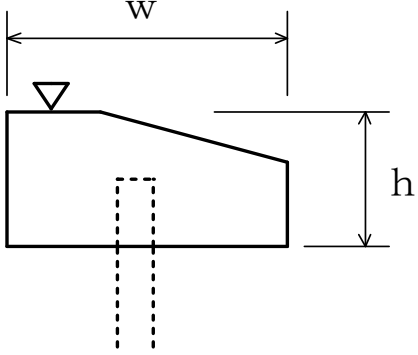
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	30		集水柵工	基準高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	31		現場塗装工	塗 膜 厚	<p>a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>

測定基準	測定箇所	摘要
<p>1箇所毎 ※は、現場打部分のある場合</p>		
<p>塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは500㎡とする。 1ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。 また、500㎡以下についても1ロットとする。</p>		

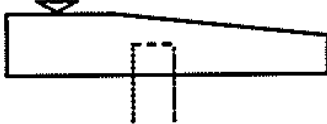
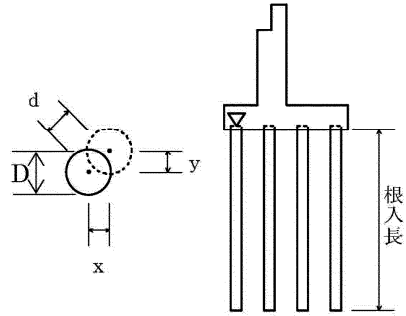
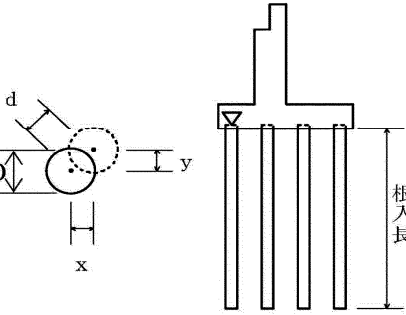
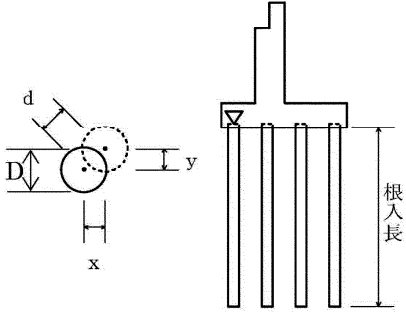
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	1		一般事項 (切込砂利) (碎石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上
						厚さ t_1 , t_2	-30
						延 長 L	各構造物の規格値による
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	1	基礎工 (護岸) (現場打)	基 準 高 ∇	± 30
						幅 w	-30
						高 さ h	-30
						延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

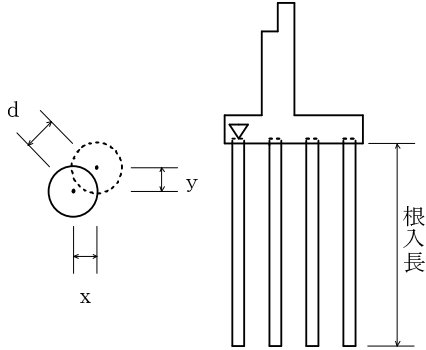
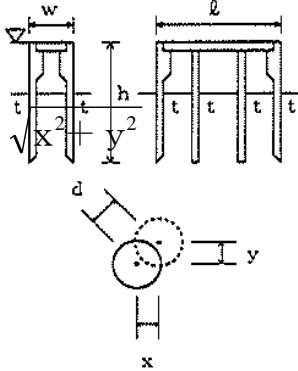
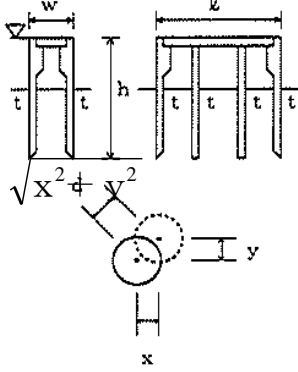
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	3	2	基礎工（護岸） （プレキャスト）	基 準 高 ∇	±30
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4	1	既製杭工 （既製コンクリート杭） （鋼管杭） （H鋼杭）	基 準 高 ∇	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ 100以内
						傾 斜	1/100以内
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	4	2	既製杭工 （鋼管ソイルセメント杭）	基 準 高 ∇	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	100以内
						傾 斜	1/100以内
						杭 径 D	設計値以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	5		場所打杭工	基 準 高 ∇	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	100以内
						傾 斜	1/100以内
						杭 径 D	設計径（公称径）-30以上

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	

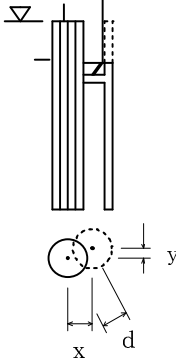
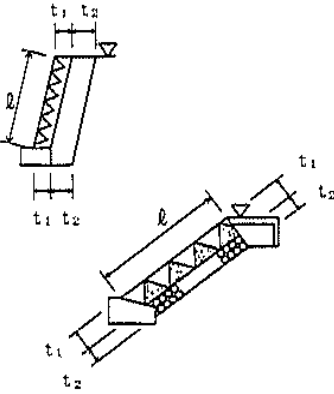
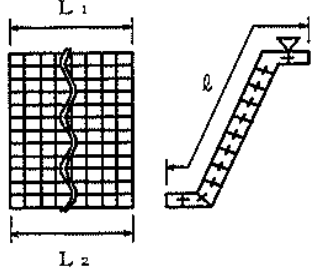
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	6		深礎工	基 準 高 ∇	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	150以内
						傾 斜	1/50以内
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ∇	±100
						ケーソンの長さ l	-50
						ケーソンの幅 w	-50
						ケーソンの高さ h	-100
						ケーソンの壁厚 t	-20
						偏 心 量 d	300以内
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ∇	±100
						ケーソンの長さ l	-50
						ケーソンの幅 w	-50
						ケーソンの高さ h	-100
						ケーソンの壁厚 t	-20
						偏 心 量 d	300以内

測定基準	測定箇所	摘要
<p>全数について杭中心で測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	
<p>壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	
<p>壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	

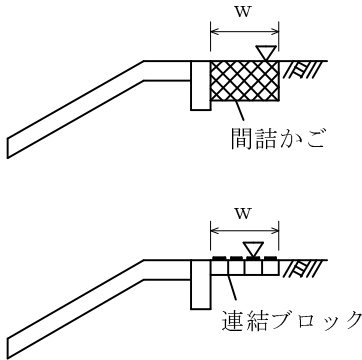
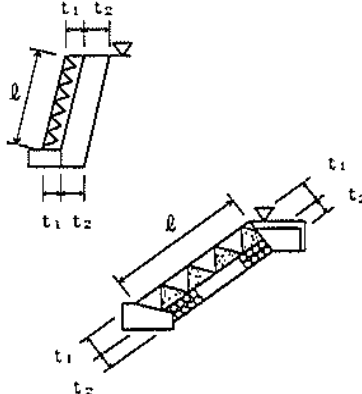
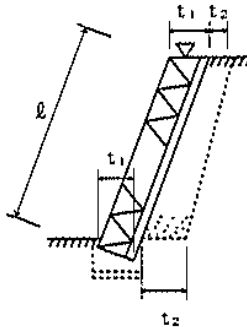
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事共通編	2 一般施工	4 基礎工	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 ∇	± 100	
						根 入 長	設計値以上	
						偏 心 量 d	300以内	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基 準 高 ∇	± 50	
						法長 l	$l < 3\text{ m}$	-50
							$l \geq 3\text{ m}$	-100
							厚さ(ブロック積張) t_1	-50
							厚さ(裏込) t_2	-50
							延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積(張)工	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基 準 高 ∇	± 50	
						法 長 l	-100	
						延長 L_1, L_2	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。</p>	<p>$d = \sqrt{x^2 + y^2}$</p> 	
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	3	3	コンクリートブロック工 （天端保護ブロック）	基 準 高 ∇	±50	
						幅 w	-100	
						延 長 L	-200	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	4		緑化ブロック工	基 準 高 ∇	±50	
						法長 l	$l < 3 \text{ m}$	-50
							$l \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚さ（ブロック） t_1	-50	
						厚さ（裏込） t_2	-50	
						延 長 L	-200	
3 土木工事共通編	2 一般施工	5 石・ブロック積（張）工	5		石積（張）工	基 準 高 ∇	±50	
						法長 l	$l < 3 \text{ m}$	-50
							$l \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚さ（石積・張） t_1	-50	
						厚さ（裏込） t_2	-50	
						延 長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	 <p>The diagrams show two types of pipe joints. The top diagram shows a joint with a cross-hatched '間詰かご' (interlocking basket) between the pipe sections, with a width 'w' indicated. The bottom diagram shows a joint with a '連結ブロック' (connecting block) between the pipe sections, also with a width 'w' indicated.</p>	
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>	 <p>The diagram shows a pipe section of length 'l' with a truss-like internal structure. Two measurement points, 't1' and 't2', are indicated at the top and bottom of the pipe section.</p>	
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは上端部及び下端部の2箇所を測定。</p>	 <p>The diagram shows a pipe section of length 'l' with a truss-like internal structure. Two measurement points, 't1' and 't2', are indicated at the top and bottom of the pipe section. A dashed line indicates a reference position for the measurement.</p>	

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。 厚さは各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工)セメン ト(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	—	—

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。</p> <p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m ² に1個の割でコアーを採取して測定。		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	—	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平坦性	—		3m ⁷ プロファイルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm 以下	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。</p> <p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工)セメント (石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	—	—
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	—	—
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平 坦 性	—		3m ² プロファイルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付 き)(σ)1.75mm 以下	

測定基準	測定箇所	摘要
幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000㎡あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。	<p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。		
幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X10）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	—	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	—	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平坦性	—		3m ⁷ プロフィールメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm 以下	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	10	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50		—	
						厚 さ	t < 15cm	-30	-10	
							t ≥ 15cm	-45	-15	
						幅	-100		—	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	10	2	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	-9	-3		
						幅	-25	—		

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は片側延長20m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長100m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長20m毎に1箇所測定。</p> <p>※歩道舗装に適用する。</p>		
<p>幅は、片側延長20m毎に1箇所の割で測定。 厚さは、片側延長100m毎に1箇所コアを採取して測定。 片側延長が100m以下のものは1施工箇所につき2個。</p> <p>※歩道舗装に適用する。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	—	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	2	グースアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	—	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	11	3	グースアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平坦性	—		3m ⁷ プロフィールメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm 以下	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000㎡あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X10）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアーを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	
						厚 さ	-45		-15	
						幅	-50		—	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。 厚さは各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	3	コンクリート舗装工 (セメント(石灰・瀝青)安定処理工)	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚 さ	-9	-12	-3	
						幅	-25		—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000㎡あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	-10		-3.5	
						幅	-25		—	
						平 坦 性	—		コンクリートの硬化後3mプロフィルメーターにより機械舗設の場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ)3mm以下	
						目地段差	± 2			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	±50	—	
						厚 さ	-45		-15	
						幅	-50		—	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線40m毎に水系又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長20m毎に1箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。</p> <p>基準高は、延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。</p> <p>厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p> <p>幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X ₁₀)	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	-9	-12	-3	
						幅	-25		—	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	-15		-4.5	
						幅	-35		—	
						平坦性	—		転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメーターにより(σ)2.4mm以下。	
						目地段差	± 2			

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取もしくは、掘り起こして測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000㎡あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X_{10})について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線40m毎に水系又はレベルにより1測線当たり横断方向に3箇所以上測定、幅は、延長20m毎に1箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。</p>		
<p>隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	
						厚 さ	-45		-15	
						幅	-50		—	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は、延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	
						幅	-50		—	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	
						幅	-25		—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000㎡あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X_{10}）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 面積が1,000㎡以下のものは1施工箇所につき2個。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X ₁₀)	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	
						厚さ	-45		-15	
						幅	-50		—	
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は、延長20m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長20m毎に1箇所の割に測定。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線40m毎に1箇所を掘り起こして測定。</p>		

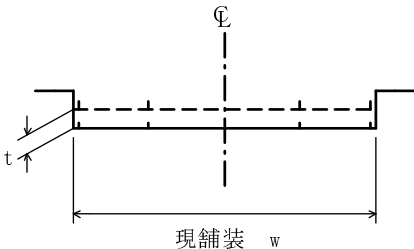
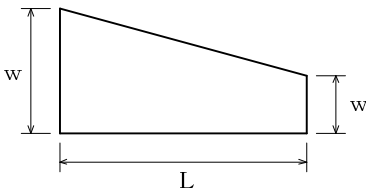
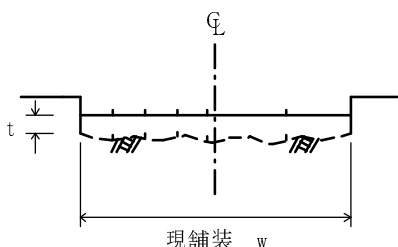
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の 平均(X ₁₀)	
							中規模 以上	小規模 以下	中規模 以上	小規模 以下
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定 処理工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト安 定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	
						幅	-50		—	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	
						幅	-25		—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X_{10}) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアを採取して測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>	<p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000m²に1個の割でコアを採取して測定。 面積が1,000m²以下のものは1施工箇所につき2個。</p>		

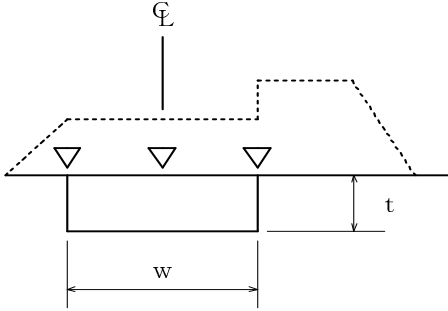
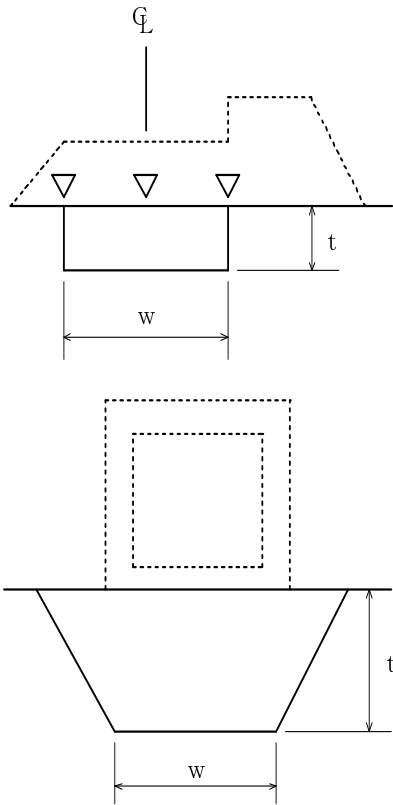
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X_{10})
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	15		路面切削工	厚 さ t	-7	-2
						幅 w	-25	—
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	16		舗装打換え工	路 盤 工	幅 w	-50
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
						舗 設 工	幅 w	-25
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
3 土木工事共通編	2 一般施工	6 一般舗装工	17		オーバーレイ工	厚 さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延 長 L	-100	
						平坦性	—	3m ⁷ プロファイルメーター (σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm 以下

測定基準	測定箇所	摘要
<p>厚さは20m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 延長20m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。 測定方法は自動横断測定法によることが出来る。</p>	 <p style="text-align: center;">現舗装 w</p>	
<p>各層毎 1箇所／1施工箇所</p>	 <p style="text-align: center;">L</p>	
<p>厚さは20m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。 測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>	 <p style="text-align: center;">現舗装 w</p>	

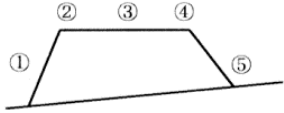
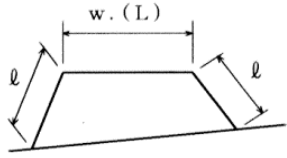
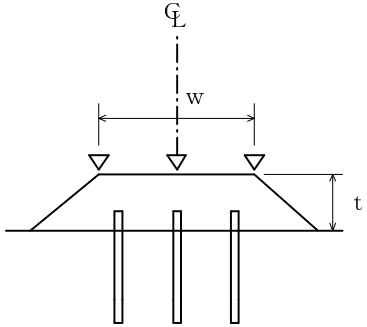
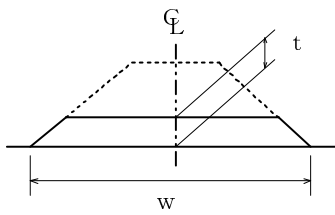
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	2		路床安定処理工	基 準 高 ∇	± 50
						施工厚さ t	-50
						幅 w	-100
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	3		置換工	基 準 高 ∇	± 50
						置換厚さ t	-50
						幅 w	-100
						延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>延長20m毎に1箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		

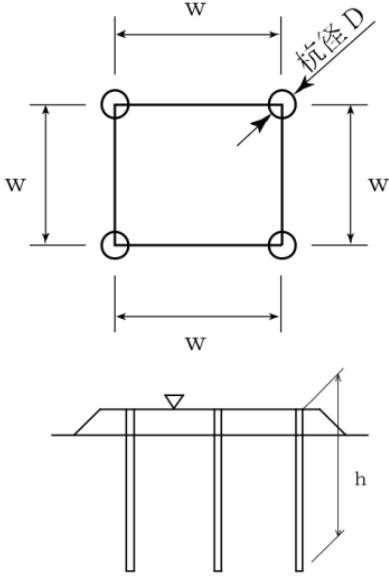
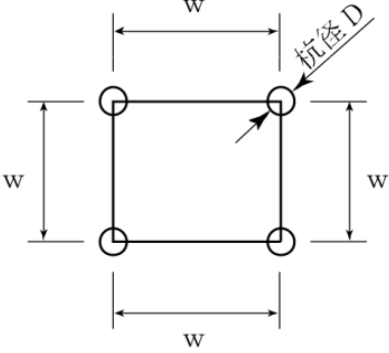
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	4		表層安定処理工 (サンドマット海上)	基 準 高 ∇	特記仕様書に明示
						法 長 l	-500
						天 端 幅 w	-300
						天端延長 L	-500
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	5		パイルネット工	基 準 高 ∇	± 50
						厚 さ t	-50
						幅 w	-100
						延 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	7 地盤改良工	6		サンドマット工	施工厚さ t	-50
						幅 w	-100
						延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。</p>		
<p>w. (L) は施工延長20mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき3箇所。 (L) はセンターライン及び表裏法肩で行う。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。</p>		

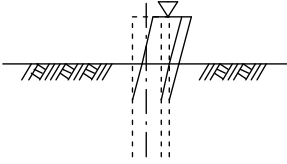
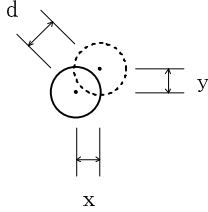
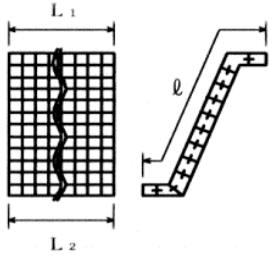
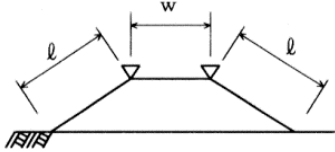
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	7		バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔 w	±100
						杭 径 D	設計値以上
						打 込 長 さ h	設計値以上
			8		締固め改良工 (サンドコンパクションパイ ル工)	サンドドレーン、袋詰 式サンドドレーン、サ ンドコンパクションパ イルの砂投入量	—
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ▽	-50
						位置・間隔 w	D/4 以内
						杭 径 D	設計値以上
						深 度 ℓ	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
<p>100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。</p>	 <p>※余長は、適用除外</p>	
<p>全本数</p>		
<p>全本数 計器管理にかえることができる。</p>		
<p>100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。</p>		
<p>全本数</p>		

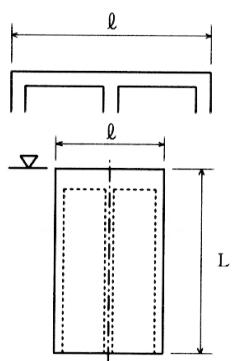
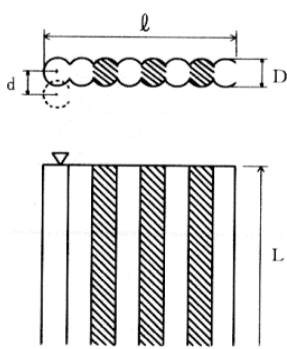
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 ∇	± 100
						根 入 長	設計値以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ ℓ	設計深さ以上
						配 置 誤 差 d	100
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	-100
						延長 L_1 L_2	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 ∇	-50
						天 端 幅 w	-100
						法 長 ℓ	-100

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所。 延長20m（又は30m）以下のものは、1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>全数</p>	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長20mにつき1箇所。延長20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 ∇	-50
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	9		地中連続壁工 (壁式)	基 準 高 ∇	± 50
						連壁の長さ l	-50
						変 位	300
						壁 体 長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	10		地中連続壁工 (柱列式)	基 準 高 ∇	± 50
						連壁の長さ l	-50
						変 位 d	D/4以内
						壁 体 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20mにつき1箇所。 延長20m以下のものは、1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>基準高は施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所。 延長20m（又は30m）以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所。延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>基準高は施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所。 延長20m（又は30m）以下のものについては1施工箇所につき2箇所。 変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1箇所。 延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		<p>D：杭径</p>

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	1	(一般事項) 鋳造費 (金属支承工)	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2	
								-0	
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ	
								≤1000mm	1以下
								センターボスを基準にした孔位置のずれ	
						>1000mm	1.5以下		
						アンカーボルト用孔 (鋳放し)	孔の直径	≤100mm	+3 -1
								>100mm	+4 -2
							孔の中心距離		JIS B 0403 CT13
						センターボス	ボスの直径		+0 -1
ボスの高さ		+1 -0							

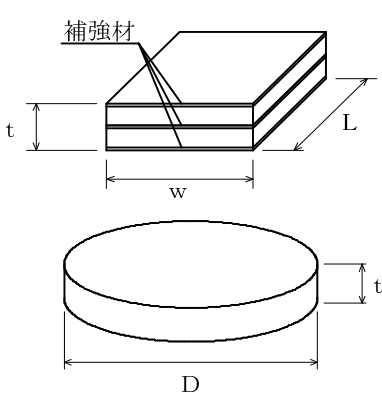
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。		

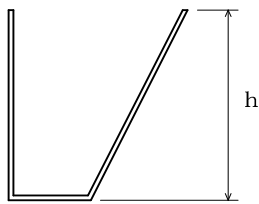
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	1	(一般事項) 鑄造費 (金属支承工)	上沓の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403-95 CT13		
						全移動量 ℓ	$\ell \leq 300\text{mm}$	± 2	
							$\ell > 300\text{mm}$	$\pm \ell / 100$	
						組立高さ H	上、下面加工仕上げ		± 3
							コンクリート構造用	$H \leq 300\text{mm}$	± 3
								$H > 300\text{mm}$	(H/200+3) 小数点以下切り捨て
						普通寸法	鑄放し長さ寸法 ※1)、※2)		JIS B 0403 CT14
							鑄放し肉厚寸法 ※1)		JIS B 0403 CT15
							削り加工寸法		JIS B 0405 粗級
							ガス切断寸法		JIS B 0417 B級
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	2	(一般事項) 鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w 長さ L 直径 D	$w, L, D \leq 500$	0 ~ + 5	
							$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$	0 ~ + 1 %	
							$1500 < w, L, D$	0 ~ + 15	
						厚さ t	$t \leq 20\text{mm}$		± 0.5
							$20 < t \leq 160$		$\pm 2.5\%$
							$160 < t$		± 4
						平 面 度		1	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。</p>		
<p>製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差</p>		

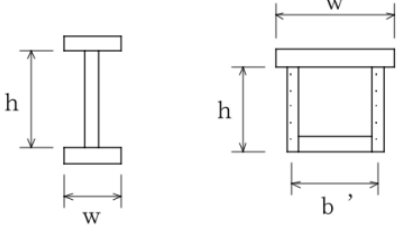
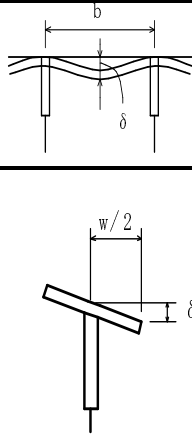
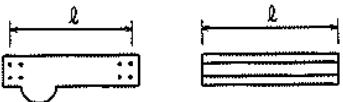
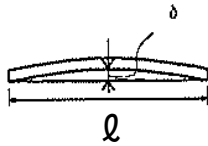
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	(一般事項) 仮設材製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
				4				
					外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$		

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。	 <p>The diagram shows a U-shaped cross-section of a profile. It consists of a vertical left leg, a horizontal bottom flange, and a right leg that is inclined upwards. A dimension line on the right side indicates the height 'h' from the top of the right leg to the bottom flange.</p>	

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する 場合) (シミュレーション仮組立検査 を行う場合)	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$		
						腹板高 h (m)			
						腹板間隔 b' (m)			
						部 材 精 度	板 の 平 面 度 δ (mm)	鋼桁及びトラス等の部材の腹板	$h / 250$
								箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b / 150$
							フランジの直角度 δ (mm)		$w / 200$
							部 材 長 ℓ (m)	鋼桁	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
トラス、アーチなど	$\pm 2 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 3 \cdots \ell > 10$								
圧縮材の曲がり δ (mm)		$\ell / 1000$							

測定基準		測定箇所	摘要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。		 <p>I型鋼桁 トラス弦材</p>	
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高 (mm) b：腹板又はリブの間隔 (mm) w：フランジ幅 (mm)			
原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。			
—	主要部材全数を測定。 l：部材長 (mm)		

※規格値のw, lに代入する数値はm単位の数値である。

ただし、「板の平面度δ, フランジの直角度δ, 圧縮材の曲りδ」の規格値のh, b, w, lに代入する数値はmm単位の数値とする。

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工 共通	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する 場合) (シミュレーション仮組立検 査を行う場合)	全長 L (m) 支間長Ln (m)	$\pm (10+L/10)$ $\pm (10+Ln/10)$
						主桁、主構 の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots B > 2$
						主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2)$ $\cdots h > 5$
						主桁、 主構の通り δ (mm)	$5+L/5$ $\cdots L \leq 100$ 25 $\cdots L > 100$
						主桁、 主構のそり δ (mm)	-5~+5 $\cdots L \leq 20$ -5~+10 $\cdots 20 < L \leq 40$ -5~+15 $\cdots 40 < L \leq 80$ -5~+25 $\cdots 80 < L \leq 200$
						主桁、主構の橋 端における出入 差 δ (mm)	設計値 ± 10
						主桁、主構の鉛 直度 δ (mm)	$3+h/1,000$
						現場継手部の すき間 $\delta 1, \delta 2$ (mm)	設計値 ± 5

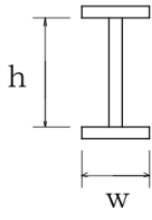
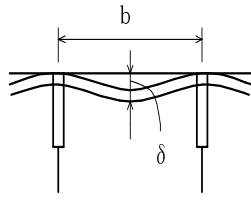
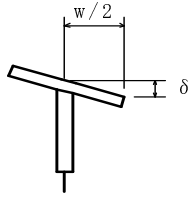
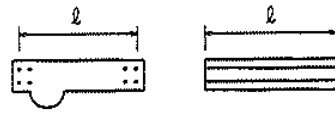
測定基準		測定箇所	摘要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁、主構全数を測定。			
各支点及び各支間中央付近を測定。			
—	両端部及び中心部を測定。		
最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)			
各主桁について10～12m間隔を測定。 L：主桁の支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長 (m)		
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。			
各主桁の両端部を測定。 h：主桁の高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ (mm)		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ1、δ2のうち大きいもの設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。			

※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。

ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

出来形管理基準及び規格値

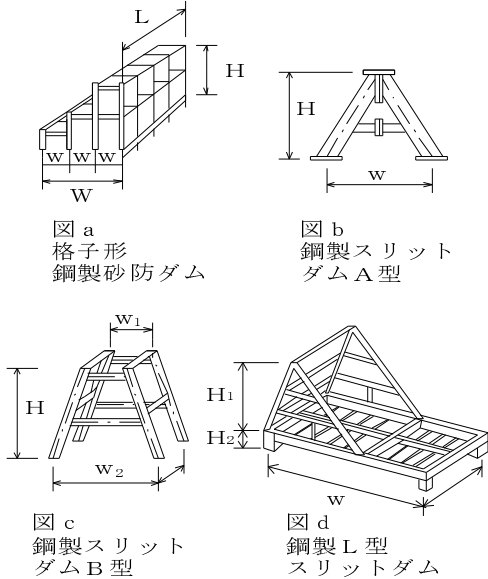

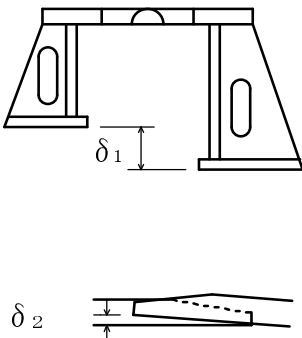
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	3	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場 合)	部 材 精 度	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2) \cdots 2.0 < w$	
							板 の 平 面 度 δ (mm)	鋼桁等の部 材の腹板	$h / 250$
								箱桁等のフ ランジ鋼床 版のデッキ プレート	$b / 150$
							フランジの直角 度 δ (mm)		$w / 200$
							部 材 長 ℓ (m)	鋼 桁	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$

測定基準	測定箇所	摘要
<p>主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。</p>	 <p>I型鋼桁</p>	
<p>主桁各支点及び各支間中央付近を測定。</p> <p>h：腹板高 (mm) b：腹板又はリブの間隔 (mm) w：フランジ幅 (mm)</p>	 	
<p>主要部材全数を測定。</p>		

※規格値のw, lに代入する数値はm単位の数値である。
ただし、「板の平面度 δ, フランジの直角度 δ, 圧縮材の曲り δ」の規格値のh, b, w, lに代入する数値はmm単位の数値とする。

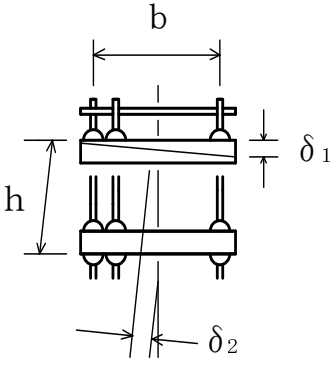
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	部材の水平度	10	
						堤 長 L	±30	
						堤 長 ℓ	±10	
						堤 幅 W	±30	
						堤 幅 w	±10	
						高 さ H	±10	
						ベースプレートの高さ	±10	
						本体の傾き	±H/500	
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	4		検査路製作工	部材	部材長 ℓ (m) ±3……ℓ≤10 ±4……ℓ>10	
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m) 0~+30	
						仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ ₁ (mm)	設 計 値 ±4
							フィンガーの食い違い δ ₂ (mm)	±2

測定基準	測定箇所	摘要
全数を測定。	 <p>図 a 格子形 鋼製砂防ダム</p> <p>図 b 鋼製スリット ダム A 型</p> <p>図 c 鋼製スリット ダム B 型</p> <p>図 d 鋼製 L 型 スリットダム</p>	
図面の寸法表示箇所で測定。		
製品全数を測定。		
両端及び中央部付近を測定。	 <p>(実測値) δ_2</p>	

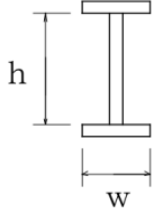
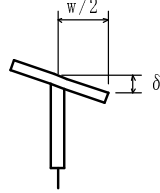
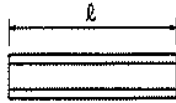
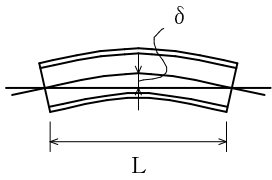
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	6		落橋防止装置製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots l > 10$
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	7		橋梁用防護柵製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots l > 10$
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	8		アンカーフレーム製作工	仮組立時	上面水平度 δ_1 (mm)	$b / 500$
							鉛 直 度 δ_2 (mm)	$h / 500$
							高さ h (mm)	± 5

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所で測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		
軸心上全数測定。		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	9		プレビーム用桁製作工	部材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots 0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots 1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots 2.0 < w$
							フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
							部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$
						仮組立時	主桁のそり δ	$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\cdots 20 < L \leq 40$
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	10		鋼製排水管製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots l > 10$

測定基準	測定箇所	摘要
各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型鋼桁</p>	
各支点及び各支間中央付近を測定。		
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		
各主桁について10～12m間隔を測定。		
図面の寸法表示箇所で測定。		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	11		工場塗装工	塗 膜 厚	<p>a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。</p> <p>b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。</p> <p>c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%を超えない。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。</p>

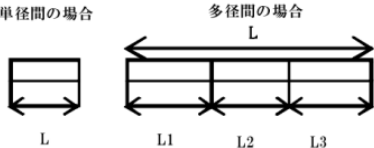
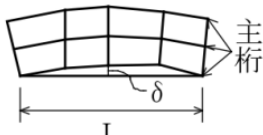
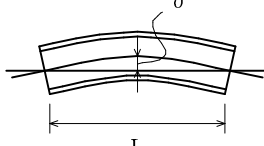
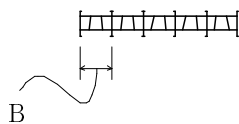
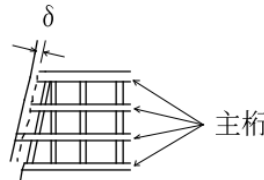
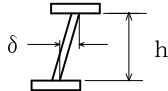
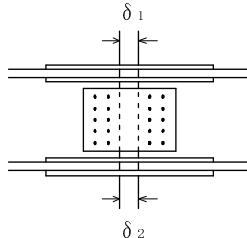
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。 1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。 また、500㎡以下についても1ロットとする。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	13 橋 梁 架 設 工			架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全 長 L (m) 支間長 L _n (m)	± (20+L/5) ± (20+L _n /5)
						通 り δ (mm)	± (10+2L/5)
						そ り δ (mm)	± (25+L/2)
						※主桁、主構の中心間 距離B (m)	± 4.....B ≤ 2 ± (3+B/2)..... B > 2
						※主桁の橋端における 出入差 δ (mm)	設計値 ± 10
						※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000
						※現場継手部のすき間 δ ₁ , δ ₂ (mm)	設計値 ± 5

測定基準	測定箇所	摘要
各けた毎に全数測定。 L：主桁・主構の支間長(m)		
L：主桁・主構の支間長(m)		
主桁、主構を全数測定。 L：主桁・主構の支間長(m)		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
各主桁の両端部を測定。h：主桁・主構の高さ(mm)		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ_1 、 δ_2 のうち大きいもの設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。		
※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

※規格値のL、Bに代入する数値はm単位の数値である。

ただし、「主桁、主構の鉛直度 δ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	13 橋 梁 架 設 工			架設工（コンクリート橋） （クレーン架設） （架設桁架設） 架設工支保工 （固定） （移動） 架設桁架設 （片持架設） （押し出し架設）	全 長・支 間	—	
						桁の中心間距離	—	
						そ り	—	
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	切土法長 ℓ	ℓ < 5 m	-200
							ℓ ≥ 5 m	法長の - 4 %
						盛土法長 ℓ	ℓ < 5 m	-100
							ℓ ≥ 5 m	法長の - 2 %
						延 長 L		-200
						3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通
ℓ ≥ 5 m	法長の - 4 %							
厚さ t	t < 5 cm	-10						
	t ≥ 5 cm	-20						
ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。								
延 長 L		-200						

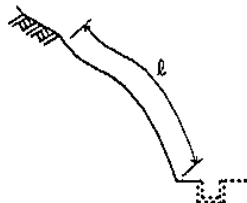
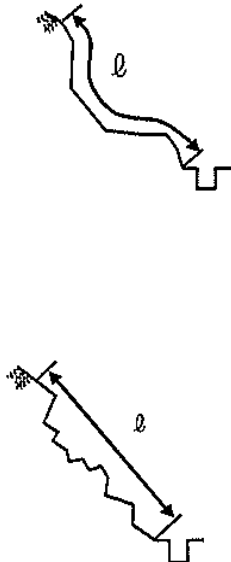
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
各桁毎に全数測定。		
一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
主桁を全数測定。		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
1 施工箇所毎		
<p>施工延長20mにつき1箇所、20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>施工面積200㎡につき1箇所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2箇所。 検査孔により測定。</p>		
1 施工箇所毎		

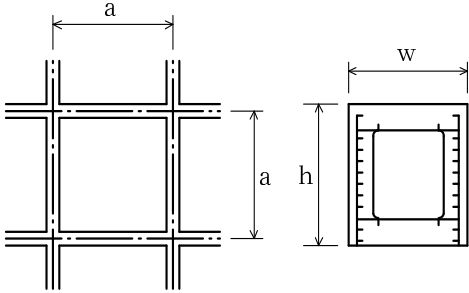
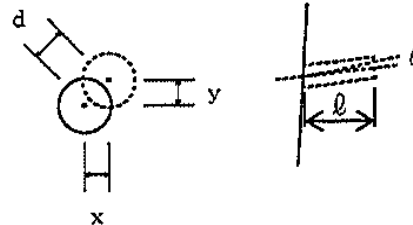
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事 共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 ℓ	$\ell < 3 \text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚さ t	$t < 5 \text{ cm}$	-10
							$t \geq 5 \text{ cm}$	-20
							ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上	
						延 長 L		-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20mにつき1箇所、20m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 ただし、測定断面に凸凹があり、曲線法長の測定が困難な場所は直線法長とする。</p>		
<p>200㎡につき1箇所以上、200㎡以下は2箇所をせん孔により測定。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木工事 共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 ℓ	$\ell < 10\text{m}$	-100
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200
						幅	w	-30
						高 さ	h	-30
						枠中心間隔 a		± 100
						延 長 L		-200
3 土木工事 共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 ℓ	$\ell < 10\text{m}$	-100
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200
						延 長 L		-200
3 土木工事 共通編	2 一般施工	14 法面工 共通	6		アンカー工	削孔深さ	ℓ	設計値以上
						配置誤差	d	100
						せん孔方向	θ	± 2.5 度

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		<p>曲線部は設計図書による</p>
<p>枠延長50mにつき1箇所、枠延長50m以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		<p>1 施工箇所毎</p>
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		<p>全数</p>
	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	

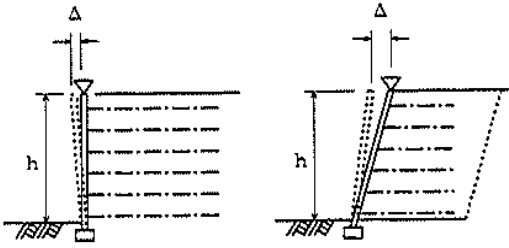
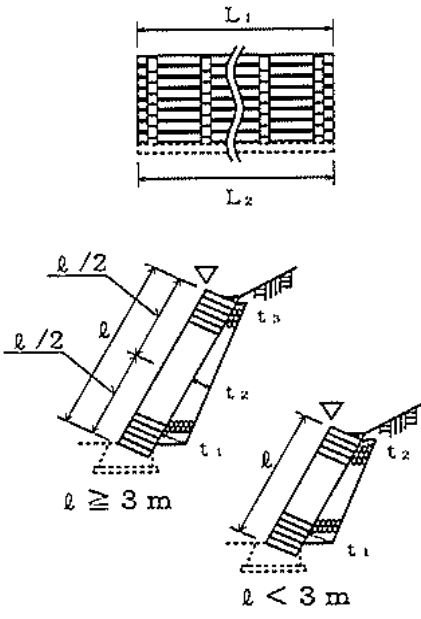
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁 壁 工 共 通	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	
						厚 さ t	-20	
						裏 込 厚 さ	-50	
						幅 w_1, w_2	-30	
						高 さ h	$h < 3 \text{ m}$	-50
							$h \geq 3 \text{ m}$	-100
						延 長 L	-200	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁 壁 工 共 通	2		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ∇	± 50	
						延 長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		

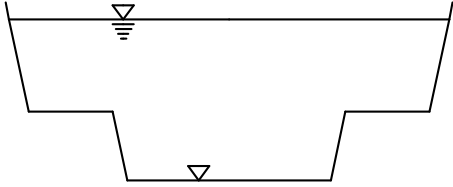
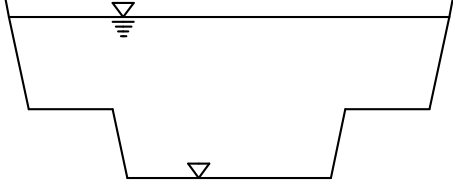
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁 壁 工 共 通	3		補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高 ∇	± 50	
						高 さ h	$h < 3 \text{ m}$	-50
							$h \geq 3 \text{ m}$	-100
						鉛 直 度 \triangle	$\pm 0.03h$ かつ ± 300 以内	
						控 え 長 さ	設計値以上	
						延 長 L	-200	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁 壁 工 共 通	4		井桁ブロック工	基 準 高 ∇	± 50	
						法 長 ℓ	$\ell < 3 \text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3 \text{ m}$	-100
						厚 さ t_1, t_2, t_3	-50	
						延 長 L_1, L_2	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1 施工箇所毎</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目			規 格 値	
									上限	下限
3 土木工事共通編	2 一般施工	16 浚渫工 共通	3	1	浚渫船運転工 (ポンプ浚渫船)	基準高▽	電気船	200ps	+200	-800
								500ps	+200	-1000
								1000ps	+200	-1200
							ディーゼル船	250ps	+200	-800
								420ps 600ps	+200	-1000
								1350ps	+200	-1200
						幅			-200	
						延 長			-200	
						3 土木工事共通編	2 一般施工	16 浚渫工 共通	3	2
幅			-200							
延 長			-200							

測定基準	測定箇所	摘要
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。 ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。</p>		
<p>延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5 m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。 ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	18 床 版 工	2		床版工	基 準 高 ▽	±20
						幅 w	0～+30
						厚 さ t	-10～+20
						鉄筋のかぶり	設計値以上
						鉄筋の有効高さ	±10
						鉄 筋 間 隔	±20
							上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合

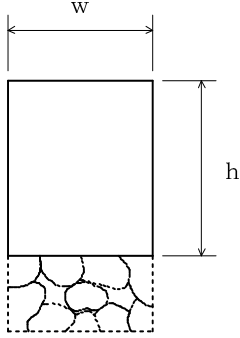
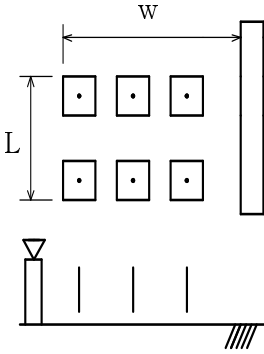
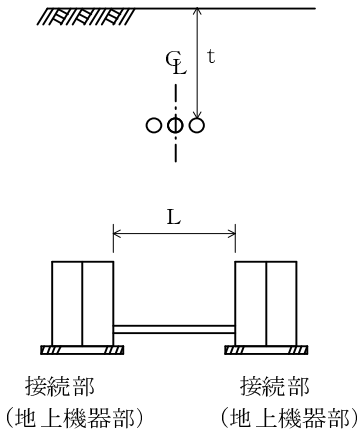
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は、1径間当たり2箇所（支点付近）で、1箇所当たり両端と中央部の3点、幅は1径間当たり3箇所、厚さは型枠設置時におおむね10㎡に1箇所測定。（床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）</p>		
<p>1径間当たり3断面（両端及び中央）測定。1断面の測定箇所は断面変化毎1箇所とする。</p>		
<p>1径間当たり3箇所（両端及び中央）測定。 1箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に2mの範囲を測定。</p>		

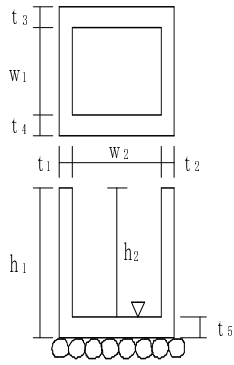
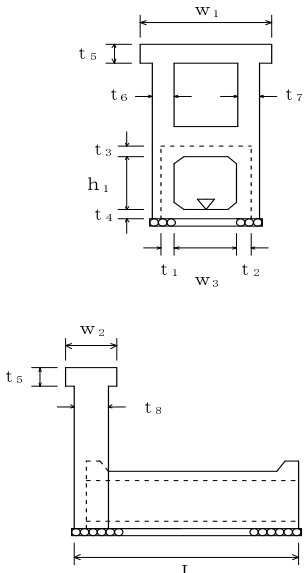
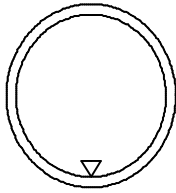
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	1 築堤・護岸	7 法覆護岸工	4		護岸附属物工	幅 w	-30
						高 さ h	-30
6 河川編	1 築堤・護岸	10 水制工	8		杭出し水制工	基 準 高 ∇	± 50
						幅 w	± 300
						方 向	$\pm 7^\circ$
						延 長 L	-200
6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	3		配管工	埋 設 深 t	0 ~ +50
						延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
各格子間の中央部1箇所を測定。		
1組毎		
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		
接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】		

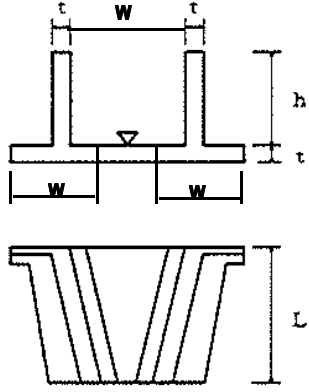
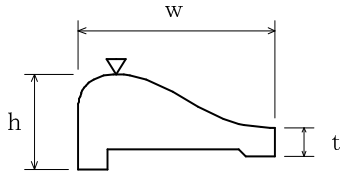
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	4		ハンドホール工	基準高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管本体工	6	1	函渠工 (本体工)	基準高 ∇	± 30
						厚さ $t_1 \sim t_8$	-20
						幅 w_1, w_2	-30
						内空幅 w_3	-30
						内空高 h_1	± 30
						延長 L	-200
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管本体工	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基準高 ∇	± 30
						延長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>1箇所毎 ※は現場打部分のある場合</p>		
<p>柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。</p> <p>函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所にて測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		
<p>1施工箇所毎</p>		

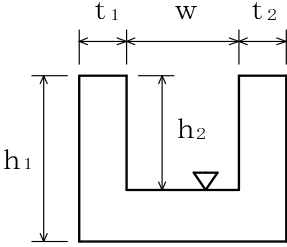
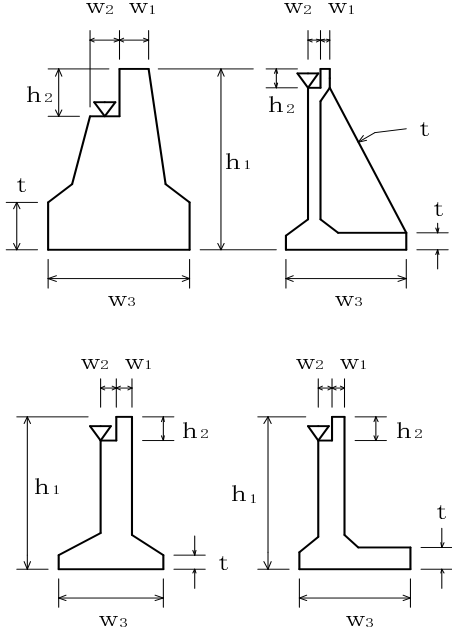
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管 本体内工	7 8		翼壁工 水叩工	基 準 高 ∇	± 30	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	± 30	
						延 長 L	-50	
6 河川編	4 水門	6 水門 本体内工	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ∇	± 30	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	± 30	
						延 長 L	-50	
6 河川編	5 堰	6 可動堰 本体内工	13 14		閘門工 土砂吐工	基 準 高 ∇	± 30	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	± 30	
						延 長 L	-50	
6 河川編	5 堰	7 固定堰 本体内工	8 9 10		堰本体内工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ∇	± 30	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	± 30	
						堰長 L	L < 20m	-50
							L \geq 20m	-100

測定基準	測定箇所	摘要
<p>図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		
<p>図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		
<p>図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		
<p>基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所にて測定。</p>		

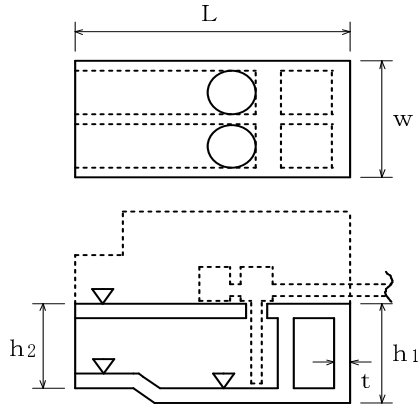
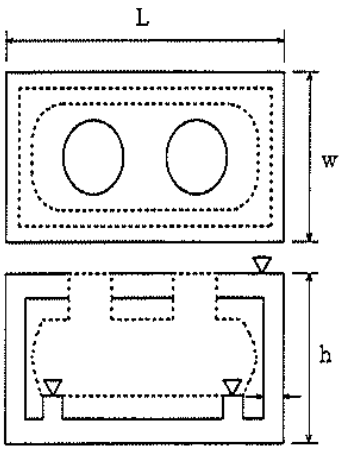
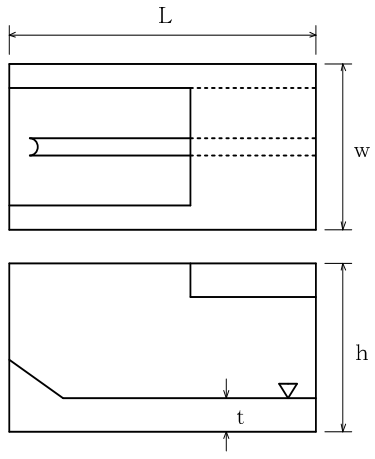
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	5 堰	8 魚道工	3		魚道本体工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t_1, t_2	-20
						幅 w	-30
						高 さ h_1, h_2	-30
						延 長 L	-200
6 河川編	5 堰	9 管理橋下部工	2		管理橋橋台工	基 準 高 ∇	± 20
						厚 さ t	-20
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50
						高 さ h_1	-50
						胸壁の高さ h_2	-30
						天 端 長 l_1	-50
						敷 長 l_2	-50
						胸壁間距離 l	± 30
						支点長及び中心線の変化	± 50

測定基準	測定箇所	摘要
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	 <p>A diagram showing a U-shaped cross-section. The top width is divided into three segments: t_1, w, and t_2. The total height is h_1, and the height from the top of the side walls to the bottom of the U-shape is h_2. A small inverted triangle is shown at the bottom center of the U-shape.</p>	
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所で測定。</p>	 <p>Four diagrams showing different cross-sectional shapes. Each diagram has a top width divided into w_2 and w_1. The height from the top of the side walls to the bottom of the shape is h_2, and the total height is h_1. The bottom width is w_3. The thickness of the side walls is t. The diagrams show various shapes: a trapezoid, a triangle, a T-shape, and a stepped T-shape.</p>	

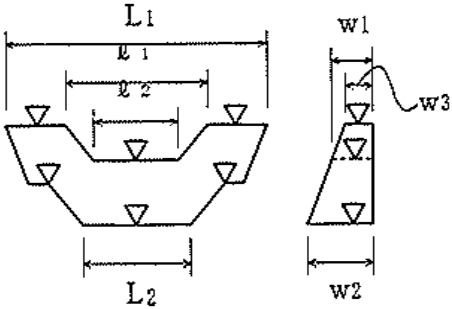
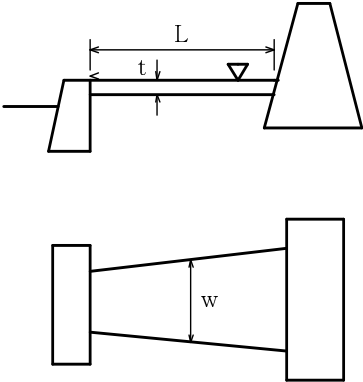
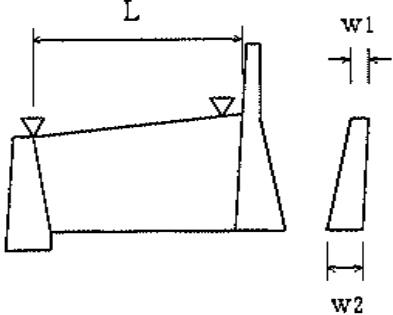
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	6 排水機場	4 機場 本体工	6		本体工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高さ h_1, h_2	± 30
						延 長 L	-50
6 河川編	6 排水機場	4 機場 本体工	7		燃料貯油槽工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高 さ h	± 30
						延 長 L	-50
6 河川編	6 排水機場	5 沈砂池工	7		コンクリート床版工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高 さ h	± 30
						延 長 L	-50

測定基準	測定箇所	摘要
図面の表示箇所で測定。		
図面の表示箇所で測定。		
図面の表示箇所で測定。		

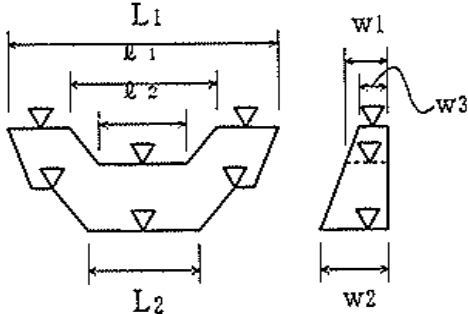
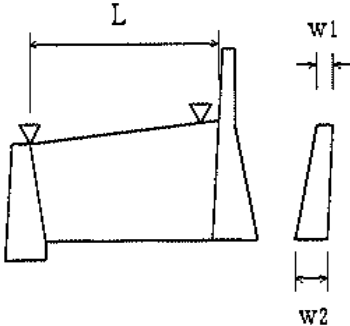
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	7 床止め・床固め	4 床止め工	6		本体工（床固め本体工）	基準高 ∇	± 30
						天端幅 w_1, w_3	-30
						堤幅 w_2	-30
						堤長 L_1, L_2	-100
						水通し幅 l_1, l_2	± 50
6 河川編	7 床止め・床固め	4 床止め工	8		水叩工	基準高 ∇	± 30
						厚さ t	-30
						幅 w	-100
						延長 L	-100
6 河川編	7 床止め・床固め	5 床固め工	6		側壁工	基準高 ∇	± 30
						天端幅 w_1	-30
						堤幅 w_2	-30
						長さ L	-100

測定基準	測定箇所	摘要
<p>図面に表示してある箇所で測定。</p>		
<p>基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。</p>		
<p>1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。</p>		

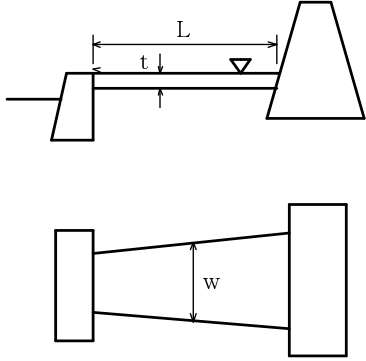
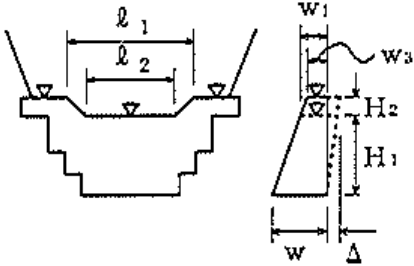
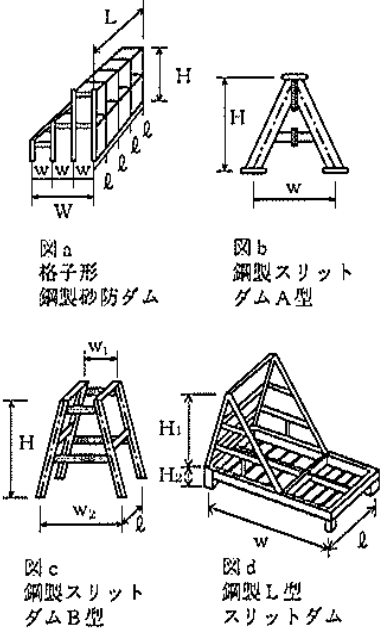
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 砂防編	1 砂防堰堤	3 工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部材	部材長 ℓ (m) $\pm 3 \cdots \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots \ell > 10$
8 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	4		コンクリート堰堤本体工	基準高 ∇	± 30
						天端部 堤 幅 w_1, w_3 w_2	-30
						水通しの幅 ℓ_1, ℓ_2	± 50
						堤 長 L_1, L_2	-100
8 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	6		コンクリート側壁工	基準高 ∇	± 30
						幅 w_1, w_2	-30
						長 さ L	-100

測定基準	測定箇所	摘要
<p>図面の寸法表示箇所を測定。</p>		
<p>図面の表示箇所を測定。</p>		
<p>1. 図面の寸法表示箇所を測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
8 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	8		水叩工	基準高 ∇	± 30	
						幅 w	-100	
						厚 さ t	-30	
						延 長 L	-100	
8 砂防編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	1	鋼製堰堤本体工 (不透過型)	水通し部	堤 高 ∇	± 50
							長 さ l_1, l_2	± 100
							幅 w_1, w_3	± 50
							下流側倒れ Δ	$\pm 0.02 H_1$
						袖部	袖 高 ∇	± 50
							幅 w_2	± 50
							下流側倒れ Δ	$\pm 0.02 H_2$
8 砂防編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	2	鋼製堰堤本体工 (透過型)	堤長 L 格	± 50	
						堤長 l 格・B・L	± 10	
						堤幅 W 格	± 30	
						堤幅 w 格・A・B・L	± 10	
						高さ H 格・A・B・L	± 10	

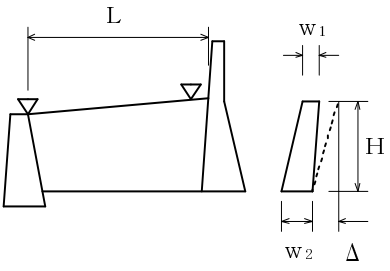
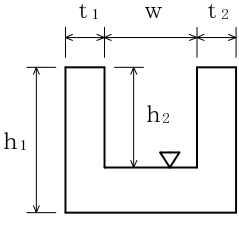
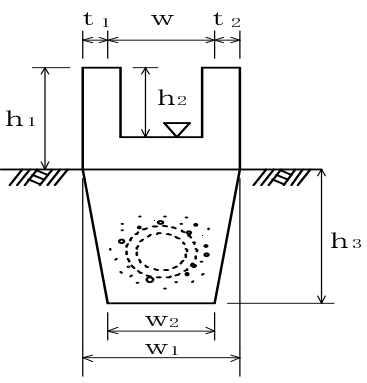
測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。</p>		
<p>1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。</p>		
<p>(備考) 格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型</p>	 <p>図a 格子形 鋼製砂防ダム</p> <p>図b 鋼製スリット ダムA型</p> <p>図c 鋼製スリット ダムB型</p> <p>図d 鋼製L型 スリットダム</p>	

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
8 砂防編	1 砂防堰堤	9 鉄製堰堤工	6		鋼製側壁工	堤 高 ∇	± 50	
						長 さ L	± 100	
						幅 w_1, w_2	± 50	
						下流側倒れ \triangle	$\pm 0.02H$	
						高さ h	$h < 3\text{ m}$	-50
							$h \geq 3\text{ m}$	-100
8 砂防編	2 流路	5 床固め工	8		魚道工	基 準 高 ∇	± 30	
						幅 w	-30	
						高 さ h_1, h_2	-30	
						厚 さ t_1, t_2	-20	
						延 長 L	-200	
8 砂防編	3 斜面对策	6 山腹水路工	4		山腹明暗渠工	基 準 高 ∇	± 30	
						厚 さ t_1, t_2	-20	
						幅 w	-30	
						幅 w_1, w_2	-50	
						高 さ h_1, h_2	-30	
						深 さ h_3	-30	
						延 長 L	-200	

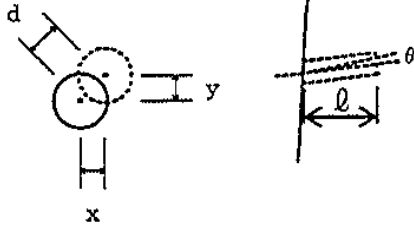
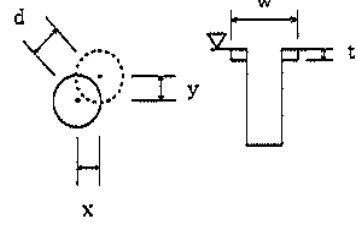
出来形管理基準及び規格値

単位：mm

測定基準	測定箇所	摘要
<p>1. 図面に表示してある箇所にて測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。</p>	 <p>The diagram shows a side view of a double-wall structure. The total length is labeled 'L'. The top width is 'w1' and the bottom width is 'w2'. The height is 'H'. A dashed line indicates the internal structure, and a small triangle symbol is at the bottom right.</p>	
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	 <p>The diagram shows a U-shaped structure. The top width is divided into three sections: 't1', 'w', and 't2'. The total height is 'h1' and the height of the inner U-shape is 'h2'. A small triangle symbol is at the bottom center.</p>	
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>	 <p>The diagram shows a U-shaped structure with a bottom section. The top width is divided into 't1', 'w', and 't2'. The total height is 'h1', the height of the inner U-shape is 'h2', and the height of the bottom section is 'h3'. The bottom width is divided into 'w2' and 'w1'. A dashed circle with dots is shown in the bottom section. A small triangle symbol is at the bottom center.</p>	

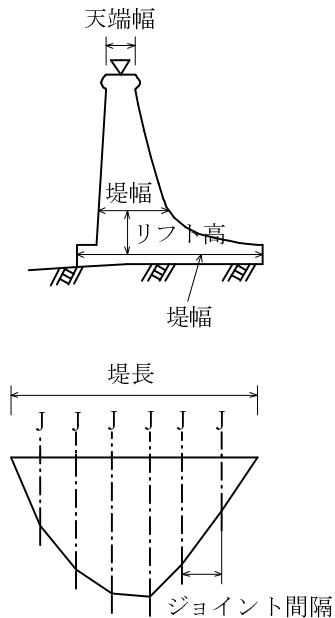
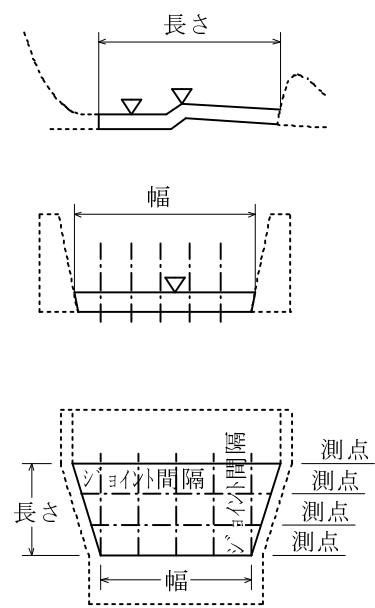
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
8 砂防編	3 斜面対策	7 地下水排除工	4		集排水ボーリング工	削孔深さ ℓ	設計値以上
						配置誤差 d	100
						せん孔方向 θ	± 2.5 度
8 砂防編	3 斜面対策	7 地下水排除工	5		集水井工	基準高 ∇	± 50
						偏心量 d	150
						長さ L	-100
						巻立て幅 w	-50
						巻立て厚さ t	-30
8 砂防編	3 斜面対策	9 抑止杭工	6		合成杭工	基準高 ∇	± 50
						偏心量 d	D/4以内かつ 100以内

測定基準	測定箇所	摘要
全数	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
全数測定。		

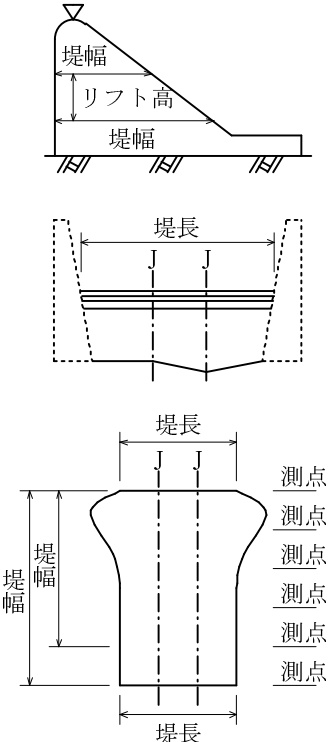
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (本体)	天 端 高 ▽	±20
						天 端 幅	±20
						ジョイント間隔	±30
						リ フ ト 高	±50
						堤 幅	-30, +50
						堤 長	-100
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (水叩)	天 端 高 ▽	±20
						ジョイント間隔	±30
						幅	±40
						長 さ	-100, +60

測定基準	測定箇所	摘要
<p>1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。</p> <p>①天端高（越流部堤頂高を含む）は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 （注）堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。（堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む） ③ジョイント間隔（横継目）は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。</p> <p>3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督職員の指示による。 ②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督職員の指示による。</p>	 <p>J：ジョイント</p>	
<p>1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。</p> <p>①天端高（敷高）、ジョイント間は各ジョイント、各測点の交点部を測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。</p> <p>3. 水叩の平坦性の測定は監督職員の指示による。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (副ダム)	天 端 高 ▽	±20
						ジョイント間隔	±30
						リ フ ト 高	±50
						堤 幅	-30, +50
						堤 長	±40

測定基準	測定箇所	摘要
<p>1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。</p> <p>①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。</p>	 <p>J：ジョイント</p>	

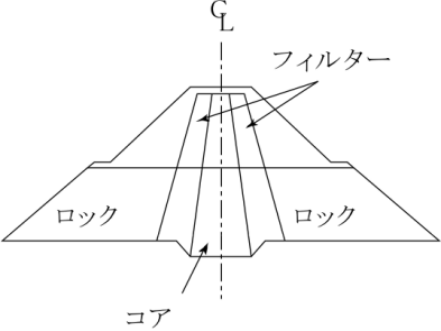
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30
						ジョイント間隔	±20
						リ フ ト 高	±50
						長 さ	±100
						厚 さ	±20

測定基準	測定箇所	摘要
<p>1. 図面の寸法表示箇所で測定。2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。</p> <p>①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。</p> <p>②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。</p> <p>(注) リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。</p> <p>③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。</p>	<p>J：ジョイント</p>	

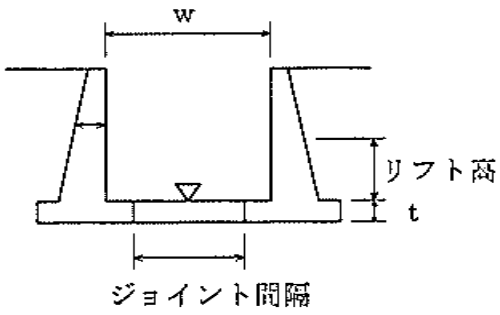
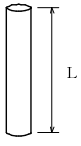
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	5		コアの盛立	基 準 高 ▽	設計値以上
						外 側 境 界 線	- 0 , + 500
9 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	- 0
						外 側 境 界 線	- 0 , + 1000
						盛 立 幅	- 0 , + 1000
9 ダム 編	2 フィル ダム	3 盛立 工	7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	-100
						外 側 境 界 線	- 0 , + 2000

測定基準	測定箇所	摘要
各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種（タンピングローラ）の場合		
各測点について5層毎に測定。		
各測点について盛立5m毎に測定。		

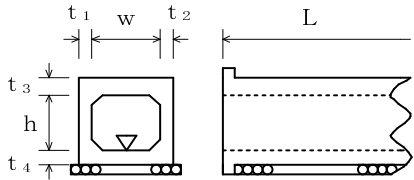
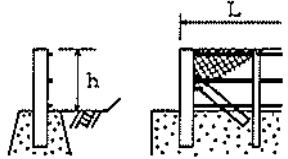
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
9 ダム 編	2 フィル ダム				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ∇	±20
						ジョイント間隔	±30
						厚 さ t	±20
						幅 w	±40
						リフト高さ	±20
						長 さ L	±100
9 ダム 編	3 基礎 グラウ チング	3 ボー リング 工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上
						配 置 誤 差	100

測定基準	測定箇所	摘要
<p>1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 1回／1施工箇所</p>		
<p>ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行う カーテングラウトに適用する。</p>		

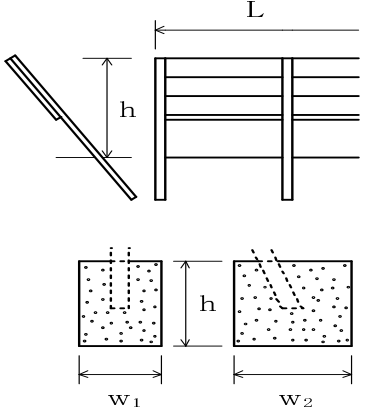
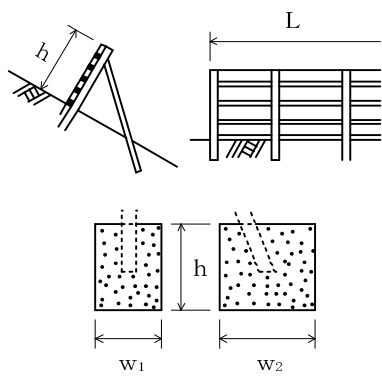
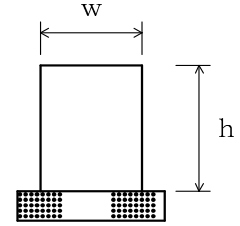
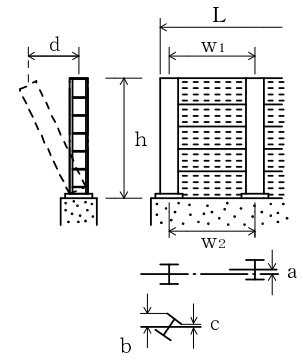
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2		遮音壁支柱製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \dots \leq 10$ $\pm 4 \dots > 10$
10 道路編	1 道路改良	9 カルバート工	6		場所打函渠工	基準高 ∇	± 30	
						厚さ $t_1 \sim t_4$	-20	
						幅 (内法) w	-30	
						高さ h	± 30	
						延長 L	$L < 20\text{m}$	-50
$L \geq 20\text{m}$	-100							
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	4		落石防止網工	幅 w	-200	
						延長 L	-200	
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	5		落石防護柵工	高さ h	± 30	
						延長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
図面の寸法表示箇所にて測定。		
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。	 <p>The diagram shows a cross-section and a side view of a pipe joint. The cross-section on the left has dimensions t_1, w, t_2, t_3, h, and t_4. The side view on the right shows a length L.</p>	
1 施工箇所毎		
施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、施工延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。	 <p>The diagram shows a cross-section and a side view of a pipe joint. The cross-section on the left has a height dimension h. The side view on the right shows a length L.</p>	
1 施工箇所毎		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	6		防雪柵工	高 さ h	±30	
						延 長 L	-200	
						基礎	幅 w_1, w_2	-30
							高 さ h	-30
10 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	7		雪崩予防柵工	高 さ h	±30	
						延 長 L	-200	
						基礎	幅 w_1, w_2	-30
							高 さ h	-30
						アン 長 ℓ カ ー	打 込 み ℓ	-10%
埋 込 み ℓ	-5%							
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	
						高 さ h	-30	
						延 長 L	-200	
10 道路編	1 道路改良	12 遮音壁工	5		遮音壁本体工	支柱	間隔 w_1, w_2	±15
							ず れ a	10
							ねじれ b-c	5
							倒 れ d	$h \times 0.5\%$
						高 さ h	+30, -20	
						延 長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、施工延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎		
基礎 1 基毎		
施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、施工延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎		
基礎 1 基毎		
全数		
施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、施工延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所毎		
基礎 1 基毎		
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		

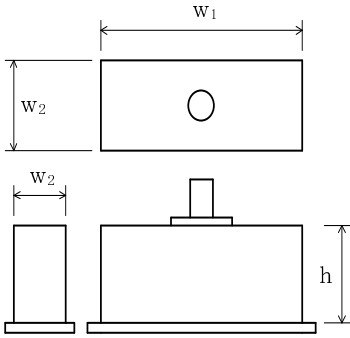
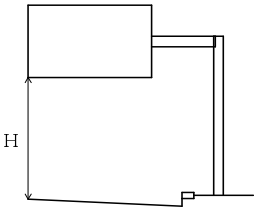
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X ₁₀)
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
10 道路編	2 舗装	4 舗装工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50		—
						厚さ	t < 15cm	-30	-10
							t ≥ 15cm	-45	-15
						幅	-100		—
10 道路編	2 舗装	4 舗装工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚さ	-9	-3	
						幅	-25	—	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高は片側延長20m毎に1箇所割で測定。 厚さは、片側延長40m毎に1箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長20m毎に1箇所測定。 ※両端部2点で測定する。</p>	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が2,000m²あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、500 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものとする。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値（X10）について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	
<p>幅は、片側延長20m毎に1箇所割で測定。厚さは、片側延長40m毎に1箇所コアを採取して測定。</p>		

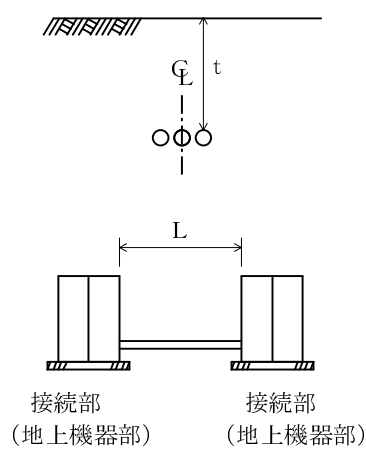
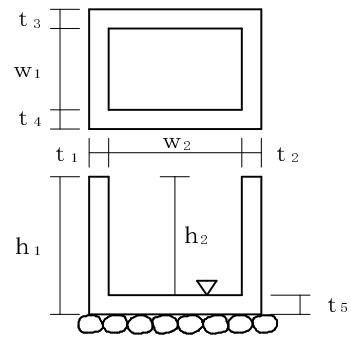
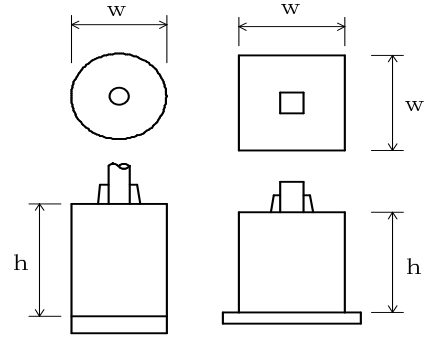
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	2 舗装	5 排水 構造物工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 ∇	± 30
						延 長 L	-200
10 道路編	2 舗装	7 踏掛版工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高 ∇	± 20
						各 部 の 厚 さ	± 20
						各 部 の 長 さ	± 30
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	± 20
						厚 さ	—
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ
ア ン カ ー 長	± 20						
10 道路編	2 舗装	9 標識工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 w_1, w_2	-30
						高 さ h	-30
10 道路編	2 舗装	9 標識工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。		
1箇所／1施工箇所		
1箇所／1踏掛版		
1箇所／1踏掛版		
1箇所／1踏掛版		
全数		
全数		
全数		
全数		
基礎一基毎		
1箇所／1基		

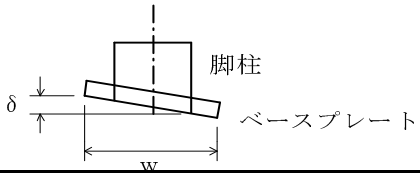
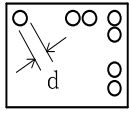
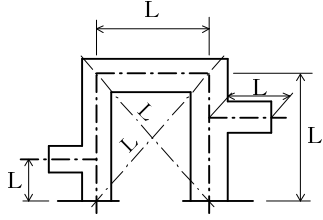
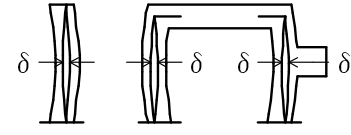
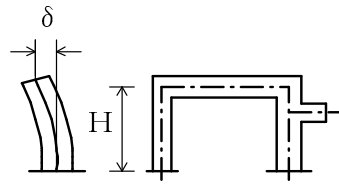
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	2 舗装	12 道路 附属 施設工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0~+50
						延 長 L	-200
10 道路編	2 舗装	12 道路 附属 施設工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 ∇	± 30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30
10 道路編	2 舗装	12 道路 附属 施設工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30
						高 さ h	-30

測定基準	測定箇所	摘要
<p>接続部間毎に1箇所</p> <hr/> <p>接続部間毎で全数</p>	 <p>接続部 (地上機器部) 接続部 (地上機器部)</p>	
<p>1箇所毎</p> <p>※印は、現場打ちのある場合</p>		
<p>1箇所／1施工箇所</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
10 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレート の鉛直度 δ (mm)	w/500	
							ベ ー ス プ レ ー ト	孔の位置	± 2
								孔の径 d	0 ~ 5
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、 対角長 L (m)	$\pm 5 \dots$ $L \leq 10m$ $\pm 10 \dots$ $10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20)/10)$ \dots $20m < L$	
							はりのキャン バー及び柱の曲 がり δ (mm)	L/1,000	
							柱 の 鉛 直 度 δ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H \dots H > 10$	

測定基準	測定箇所	摘要
各脚柱、ベースプレートを測定。		
全数を測定。		
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		
各主構の各格点を測定。	 <p>側面図 正面図</p>	
各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ (m)	 <p>側面図 正面図</p>	

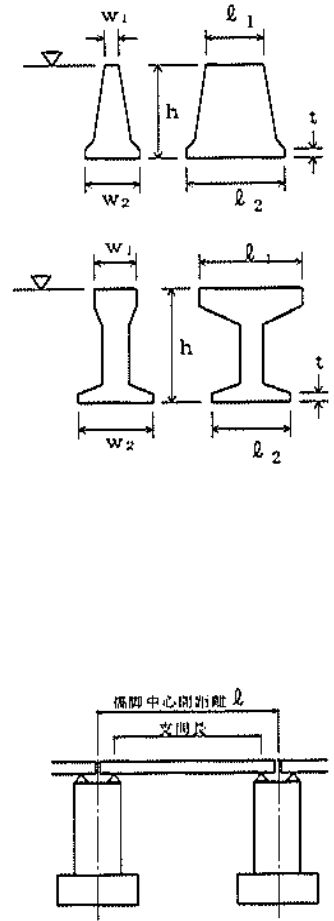
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道路編	3 橋梁下部	6 橋台工	8		橋台躯体工	基 準 高 ∇	± 20	
						厚 さ t	-20	
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-10	
						天 端 幅 w_2 (橋軸方向)	-10	
						敷 幅 w_3 (橋軸方向)	-50	
						高 さ h_1	-50	
						胸壁の高さ h_2	-30	
						天 端 長 l_1	-50	
						敷 長 l_2	-50	
						胸壁間距離 l	± 30	
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50	
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	+10~-20
							平 面 位 置	± 20
							ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度	1/50以下

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。</p>	<p>The diagram consists of three parts. The top part shows two cross-sectional views of a pier. The left view is a trapezoidal shape with a top width of W_2, a bottom width of W_3, a top height of h_2, and a total height of h_1. The right view is a similar shape with a top width of W_2, a bottom width of W_3, a top height of h_2, and a total height of h_1. The thickness of the pier is denoted as t. The middle part shows two more cross-sectional views, similar to the top part, with dimensions W_2, W_1, h_2, h_1, and t. The bottom part shows a plan view of two piers. The distance between the centerlines of the piers is labeled as '胸壁間距離 l'. The distance between the supports is labeled as '支間長'.</p>	

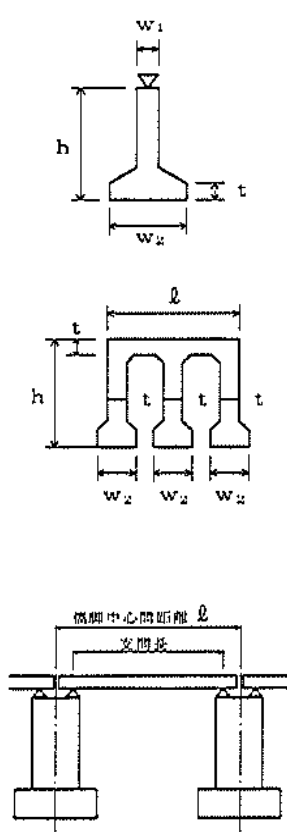
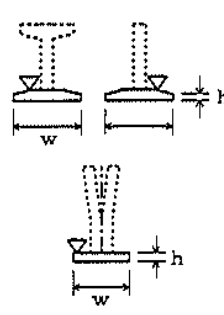
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道路編	3 橋梁下部	7 R C 橋脚工	9	1	橋脚躯体工 (張出式)	基 準 高 ∇	± 20	
						厚 さ t	-20	
						天 端 幅 w_1 (橋軸方向)	-20	
						敷 幅 w_2 (橋軸方向)	-50	
						高 さ h	-50	
						天 端 長 l_1	-50	
						敷 長 l_2	-50	
						橋脚中心間距離 l	± 30	
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50	
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	+10~-20
							平 面 位 置	± 20
							ア ン カ ー ボ ルト 孔 の 鉛 直 度	1/50以下

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支 承便覧」による。</p>	 <p>The drawings illustrate the measurement points for bridge piers. The top two diagrams show cross-sections of a pier with a tapered top and a flared base. The top diagram shows a tapered pier with top width w_1, bottom width w_2, height h, top length l_1, and bottom length l_2. The bottom diagram shows a pier with a wider top section, top width w_1, bottom width w_2, height h, top length l_1, and bottom length l_2. Both diagrams indicate a thickness t at the base. The bottom diagram is a plan view of a two-pier bridge, showing the center-to-center distance between the piers labeled as '橋脚中心間距離 l' and the span length labeled as '支間長'.</p>	

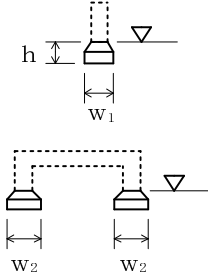
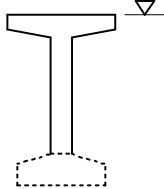
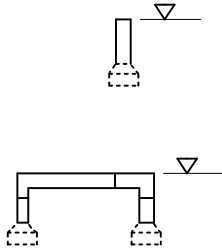
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道路編	3 橋梁下部	7 R C 橋脚工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 ∇	± 20	
						厚 さ t	-20	
						天 端 幅 w_1	-20	
						敷 幅 w_2	-20	
						高 さ h	-50	
						長 さ l	-20	
						橋脚中心間距離 l	± 30	
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50	
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	+10~-20
							平 面 位 置	± 20
ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度	1/50以下							
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20	
						幅 w (橋軸方向)	-50	
						高 さ h	-50	
						長 さ l	-50	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支 承便覧」による。</p>		
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
						幅 w_1, w_2	-50
						高 さ h	-50
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 ∇	± 20
						橋脚中心間距離 l	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 ∇	± 20
						橋脚中心間距離 l	± 30
						支 間 長 及 び 中心線の変位	± 50
10 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 δ_1, δ_2 (mm)	5 ※ ± 5

測定基準	測定箇所	摘要
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、 その他は寸法表示箇所。</p>		
<p>主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材（裸使用）の場合</p>		

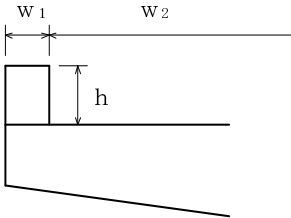
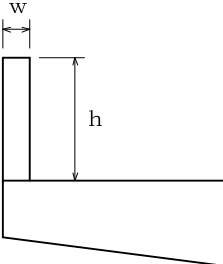
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
10 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 l (m)	$\pm 3 \cdots \cdots l \leq 10$ $\pm 4 \cdots \cdots l > 10$
10 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)		± 5
						可動支承の移動 可能量 注2)		設計移動量 +10以上
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5 $4 + 0.5 \times (B - 2)$
						水支 平承 度の	橋軸方向	$1 / 100$
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5
						可動支承の 移動量 注3)		温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上
10 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)		± 5
						可動支承の移動 可能量 注2)		設計移動量 +10以上
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)		± 5 $4 + 0.5 \times (B - 2)$
						水支 平承 度の	橋軸方向	$1 / 300$
							橋軸直角方向	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差		5
						可動支承の 移動量 注3)		温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2以上

測定基準	測定箇所	摘要
<p>図面の寸法表示箇所で測定。</p>		
<p>支承全数を測定。</p> <p>B：支承中心間隔（m） 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間（La, Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。</p> <p>詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		
<p>支承全数を測定。 上部構造部材下面とゴム支承面との接触面及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2) 可動支承の遊間（La, Lb）を計測し、支承据付時のオフセット量δを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。</p> <p>詳細は、道路橋支承便覧参照。</p>		

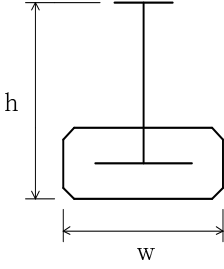
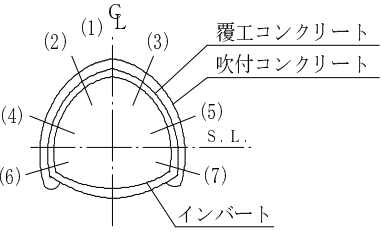
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上
						アンカーボルト定着長	-20以内 かつ -1D以内
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 w_1	-10~+20
						地覆の高さ h	-10~+20
						有効幅員 w_2	0~+30
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	6		橋梁用防護柵工	幅 w	-5~+10
						高さ h	-20~+30
10 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	8		検査路工	幅 w	±3
						高さ h	±4

測定基準	測定箇所	摘要
全数測定		
全数測定 D：アンカーボルト径（mm）		
1 径間あたり両端と中央部の 3 箇所測定。	 <p>The diagram shows a cross-section of a concrete slab with a sloped bottom edge. A vertical line indicates the height 'h'. Two horizontal dimension lines are shown: 'W1' spans the width of a small rectangular area at the top left, and 'W2' spans the width of a larger rectangular area extending further to the right.</p>	
1 径間あたり両端と中央部の 3 箇所測定。	 <p>The diagram shows a cross-section of a concrete slab with a sloped bottom edge. A vertical line indicates the height 'h'. A horizontal dimension line 'w' indicates the width of a small rectangular area at the top left.</p>	
1 ブロックを抽出して測定。		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	5 コンクリート橋上部	6 プレビーム桁橋工	2		プレビーム桁製作工（現場）	幅 w	± 5
						高 さ h	10 -5
						桁 長 ℓ スパン長	ℓ < 15… ± 10 ℓ ≥ 15… ± (ℓ - 5) かつ - 30mm以内
						横方向最大タワミ	0.8 ℓ
10 道路編	6 トンネル（NATM）	4 支保工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。 ただし、良好な岩盤 で施工端部、突出部 等の特殊な箇所は設 計吹付け厚の 1 / 3 以上を確保するもの とする。
10 道路編	6 トンネル（NATM）	4 支保工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—
						角 度	—
						削 孔 深 さ	—
						孔 径	—
						突 出 量	プレート下面 から10cm以内

測定基準	測定箇所	摘要
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 l：スパン長</p>		
<p>施工延長20m毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準(構造編)にいう地盤等級A又はBに該当す地盤とする。</p>		
<p>施工延長20m毎に断面全本数検測。</p>		

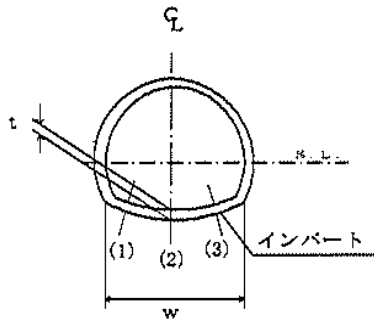
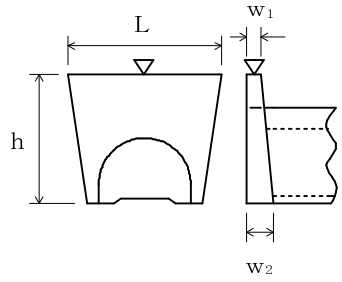
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	6 トンネル (N A T M)	5 覆工	3		覆工コンクリート工	基準高 (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	設計値以上
						延 長 L	—
10 道路編	6 トンネル (N A T M)	5 覆工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50
						厚 さ t	-30

測定基準	測定箇所	摘要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工20mにつき1箇所。</p> <p>(2) 厚さ</p> <p>(4) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。</p> <p>(a) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p> <p>(b) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は20mに1箇所、(2)～(3)は40mに1箇所の割合で行う。</p> <p>ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。 	<p>The diagram shows a circular cross-section of a tunnel. A vertical dashed line represents the centerline, labeled 'G'. The diameter is labeled 'w'. The height from the top of the tunnel to the centerline is labeled 'h'. Seven measurement points are indicated by numbered circles: (1) at the top center, (2) and (3) on the upper left and right sides, (4) and (5) on the lower left and right sides, and (6) and (7) at the bottom left and right. A label '覆工コンクリート' (Cover concrete) points to the outer layer. A dashed line indicates the '打設口' (Pouring point) at the bottom right.</p>	
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
10 道路編	6 トンネル (N A T M)	6 インバート工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	
						厚 さ t	設計値以上	
						延 長 L	—	
10 道路編	6 トンネル (N A T M)	8 坑門工	4		坑門本体工	基 準 高 ∇	± 50	
						幅 w_1, w_2	-30	
						高 さ h	$h < 3 \text{ m}$	-50
							$h \geq 3 \text{ m}$	-100
						延 長 L	-200	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>(1) 幅は、施工20mにつき1箇所。 (2) 厚さ (イ) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の間と終点を図に示す各点で測定。 (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p>		
<p>図面の主要寸法表示箇所で測定。</p>		

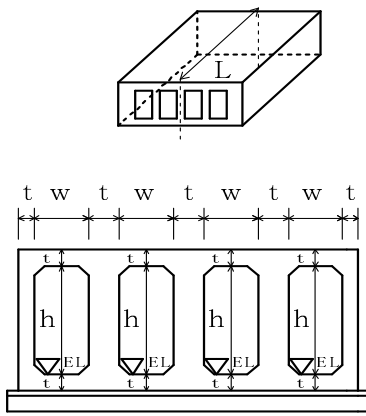
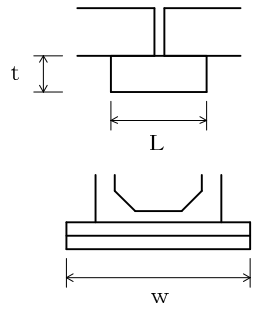
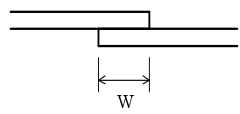

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	6 トンネル (NATM)	8 坑門工	5		明り巻工	基準点▽ (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	-20
						延 長 L	—

測定基準	測定箇所	摘要
<p>基準高、幅、高さは、施工延長20mにつき1箇所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。</p>	<p>(アーチ部)</p> <p>(側壁部)</p> <p>(インバート部)</p>	

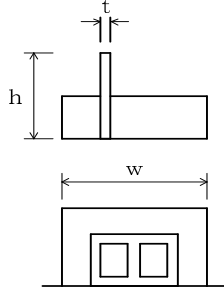
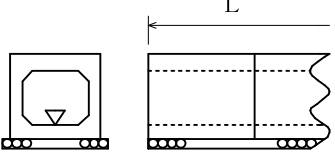
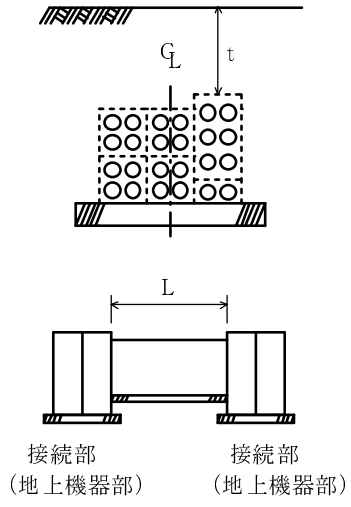
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	2		現場打躯体工	基 準 高 ∇	± 30
						厚 さ t	-20
						内 空 幅 w	-30
						内 空 高 h	± 30
						ブロック長 L	-50
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	4		カラー継手工	厚 さ t	-20
						幅 w	-20
						長 さ L	-20
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上

測定基準	測定箇所	摘要
<p>両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		
<p>図面の寸法表示箇所にて測定。</p>		
<p>両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。</p>		
<p>両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。</p>		

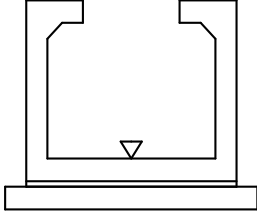
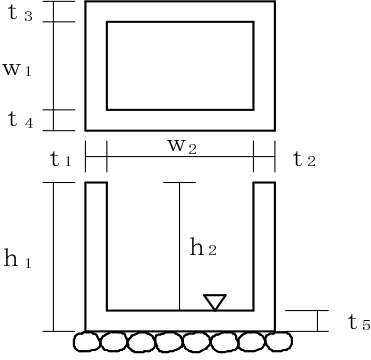
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20
						幅 w	±50
						厚 さ t	-20
10 道路編	11 共同溝	7 プレキャスト構築工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	-200
10 道路編	12 電線共同溝	5 電線共同溝工	2		管路工 (管路部)	埋 設 深 t	0~+50
						延 長 L	-200

測定基準	測定箇所	摘要
<p>図面の寸法表示箇所で測定。</p>		
<p>施工延長20m（測点間隔15mの場合は30m）につき1箇所、延長20m（又は30m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。</p> <p>延長：1施工箇所毎</p>		
<p>接続部（地上機器部）間毎に1箇所。</p> <p>接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】</p>	 <p>接続部 (地上機器部)</p> <p>接続部 (地上機器部)</p>	

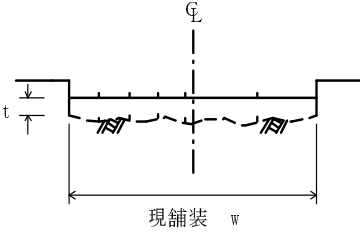
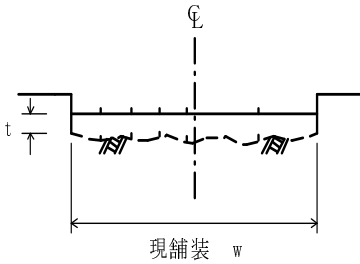
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	12 電線共同溝	5 電線共同溝工	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基準高 ▽	±30
10 道路編	12 電線共同溝	6 付帯設備工	2		ハンドホール工	基準高 ▽	±30
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 w_1, w_2	-30
						※高さ h_1, h_2	-30

測定基準	測定箇所	摘要
<p>接続部（地上機器部）間毎に1箇所。</p>		
<p>1箇所毎 ※は現場打部分のある場合</p>		

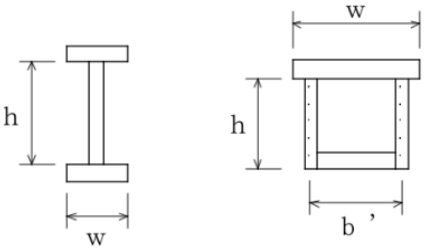
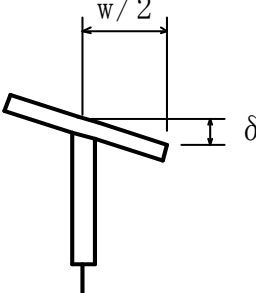
出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X_{10})	
10 道路編	14 道路維持	4 舗装工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	-9		
						幅 w	-25		
						延長 L	-100		
						平坦性	—	3m ² プロファイルメーター(σ)2.4mm以下 直読式(足付き)(σ)1.75mm以下	
10 道路編	14 道路維持	4 舗装工	7		路上再生工	路盤工	厚さ t	-30	
							幅 w	-50	
							延長 L	-100	

測定基準	測定箇所	摘要
<p>厚さは20m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長20m毎に1箇所の割とし、延長20m未満の場合は、2箇所／施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>	 <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	
<p>幅は延長20m毎に1箇所の割で測定。厚さは、各車線40m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。</p>		

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
10 道路編	16 道路修繕	3 工場製作工	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m) 腹板間隔 b' (m)	$\pm 2 \cdots w \leq 0.5$ $\pm 3 \cdots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \cdots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \cdots$ $2.0 < w$
						フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$
						圧縮材の曲がり δ (mm)	$l/1000$

測定基準		測定箇所	摘要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型鋼桁 トラス弦材</p>	
床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		
—	主要部材全数を測定。 ℓ ：部材長 (mm)	